

Pioneer

DEH-P650

CD/USB/ チューナー・WMA/MP3/AAC/WAV 対応メインユニット

取扱説明書

目次 4 ページ

carrozeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。



警告

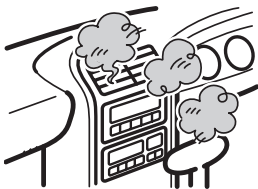
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なおいがる・内部に異物が入った・水がかかったなど異常がございましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

[使用方法]

運転中に操作をしない



画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

目次

安全のために必ずお守りください

- 絵表示について 2
- 安全上のご注意 3

はじめに

- 本書のみかた……………8
- 各部のなまえ……………9
- 本機の特徴……………11
- バッテリー上がりを防ぐために……………11
- デモモードについて……………12
- リモコンの準備……………12
- フロントパネルの取り外しかた／
取り付けかた……………12
- 本機のリセットについて……………13
- サブウーファースの設定について……………14

ここだけ読めばすぐ使えます

- 基本的な操作……………16
 - 電源 ON・OFF
 - ソース切り換え
 - 音量調節
- CDのふだんの操作……………17
 - CDを再生する
 - フォルダー・ディスクを選ぶ
 - 曲を選ぶ
 - 早送り・早戻し
 - CDを取り出す
- ラジオのふだんの操作……………18
 - バンドを選ぶ
 - 放送局を選ぶ
- USB機器のふだんの操作……………19
 - USB機器の曲を再生する
 - フォルダーを選ぶ
 - 曲を選ぶ
 - 早送り・早戻し
- iPodのふだんの操作……………20
 - iPodの曲を再生する
 - 曲を選ぶ
 - 早送り・早戻し
- よく使う機能をボタンで
すくに操作する……………21

CDを聞く

- ファンクションメニューの
切り換えかた……………22
- 繰り返し再生する……………22
- 違う曲順で再生する……………23
- 再生を一時停止する……………23
- 音を補正して高音質化する……………24
- タイトルやアーティスト名を
表示させる……………24
- タイトルから曲やフォルダーを
さがす……………25

ラジオを聞く

- 放送局を1局ずつ登録する……………26
- 登録した放送局を呼び出す……………26
- ファンクションメニューの
切り換えかた……………26
- 複数の放送局を自動的に登録する……………27
- 放送局名を見て聞きたい放送局を
呼び出す……………27
- 放送局名を選ぶ……………28
- 放送局名を表示する……………28

USB機器を聞く

- ファンクションメニューの
切り換えかた……………29
- タイトルやアーティスト名を
表示させる……………29
- タイトルを見て聞きたい
フォルダーや曲をさがす……………30
- 聞きたい曲をさがす……………30

iPodを聞く

チャプターを選ぶ	31
聞きたい曲をさがす	31
リスト表示をアルファベットで 検索する	31
タイトルやアーティスト名を 表示させる	32
ファンクションメニューの 切り換えかた	32
違う曲順で再生する	33
すべての曲をシャッフルしてから 再生する	34
再生中の曲にリンクした曲を 再生する	34
iPodから本機のiPod 機能を 操作する	35
オーディオブックの再生速度を 変更する	35

BT Audioを聞く

Bluetoothアダプターの 組み合わせについて	36
BT Audioのふだんの操作	36
ファンクションメニューの 切り換えかた	36
本システムのデバイス情報を 確認する	37

はじめに

ここだけ読めばすぐ使えます

CDを聞く

ラジオを聞く

USB機器を聞く

iPodを聞く

BT Audioを聞く

携帯電話を使う

音を調節する

初期設定

便利な機能

その他（付録）

目次

携帯電話を使う

Bluetoothアダプターの 組み合わせについて	38
電話の待ち受けソースにする	38
音声操作で電話をかける	38
かかってきた電話に出る	38
かかってきた電話を切る(着信拒否)	39
ファンクションメニューの 切り換えかた	39
携帯電話を接続する	41
Bluetooth接続を解除する	41
携帯電話を登録する	42
登録されている携帯電話を接続する	42
携帯電話の登録を削除する	43
携帯電話の電話帳を転送する	43
電話帳の表示方法を切り換える	44
電話帳を使う	44
履歴から電話をかける	45
データを消去する	46
電話番号を入力して電話をかける	46
通話中のノイズやエコーを軽減する	46
着信音をON / OFFする	47
着信拒否を設定する	47
自動着信を設定する	47
本システムのデバイス情報を 確認する	47

音を調節する

オーディオ調整メニューの 切り換えかた	48
前後左右の音量バランスを調節する	49
イコライザーカーブを選ぶ	49
イコライザーカーブを調節する	50
小さな音量でも聞きやすくする	50
サブウーファーを使う	51
サブウーファーのON / OFFと 位相切り換え	51
サブウーファーのカットオフ 周波数選択とレベル調節	51
低い音を強調する	52
低い音を出力しないようにする	52
各ソースの音量をそろえる	53

初期設定

初期設定メニューの切り換えかた	54
日付を合わせる	54
時計を合わせる	55
本機の使用時間を知らせる	55
USB/iPod ソースの切り換え方法を 設定する	56
曲のさがしかたを設定する	56
外部機器(AUX)の音声を 聞けるようにする	57
夜間のディスプレイの明るさを 切り換える	57
ディスプレイの明るさを調節する	58
リアスピーカー出力を設定する	58
RCA出力から出力される信号を選ぶ	59
ミュート/アッテネートを切り換える	59
フィーチャーデモをON / OFFする	60
リバースモードをON / OFFする	60
スクロールの設定を切り換える	61
Bluetooth AudioソースをONにする	61
Bluetoothのパスコードを変更する	61
Bluetoothのバージョンを表示する	62

便利な機能

瞬時に音量を消す	63
カレンダーを表示する	63
経過時間／時計を表示する	63
交通情報を受信する	63
エンタテインメントを表示する	64
エクスターナルユニットを使う	64

その他（付録）

CDの正しい使いかた	66
WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルについて	67
ディスク内のフォルダーについて	69
USB機器について	69
USB 機器内のフォルダーについて	70
iPodについて	70
故障かな？と思ったら	72
こんなメッセージが表示されたら	73
保証書とアフターサービス	75
商標・著作権など	75
おもな仕様	77

はじめに

ここだけ読めばすぐ使えます

CDを聞く

ラジオを聞く

USB機器を聞く

iPodを聞く

BT Audioを聞く

携帯電話を使う

音を調節する

初期設定

便利な機能

その他（付録）

本書のみかた

お買い上げ後すぐにお使いになりたいときは、「ここだけ読めばすぐ使えます」の項目をお読みください。CD やラジオなどの基本的な操作方法を説明しています。

基本操作以外の便利な機能については、「CD を聞く」や「ラジオを聞く」、「音を調節する」など、それぞれの項目をお読みください。

マークについて



注意マーク

- 安全のために必ず守っていただきたいこと、本機を操作するときの注意事項、性能を維持するための注意事項について説明しています。



用語説明マーク

- 操作や機能などの用語について説明しています。

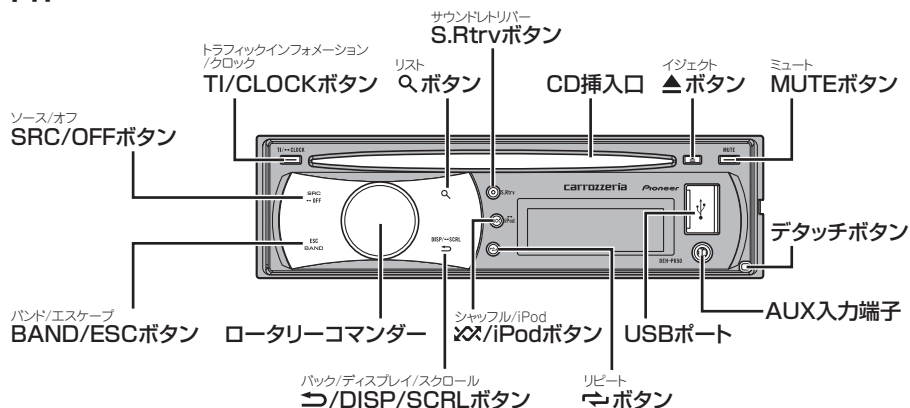


メモマーク

- 操作上のヒント、便利な使いかたなどについて説明しています。

各部のなまえ

本体

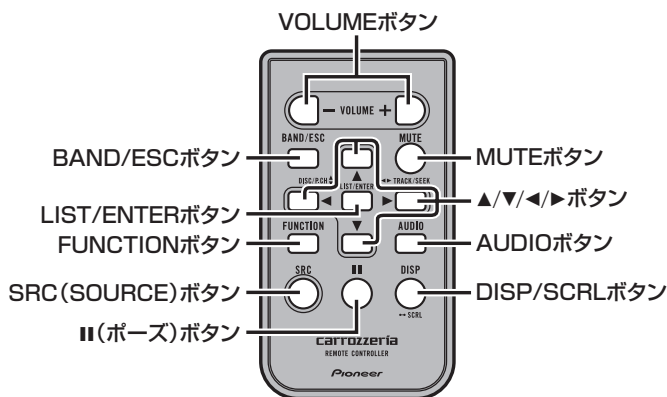


ロータリーコマンダーとは

- 「回す」・「中心を押す」・「上、下、左、右に操作する」の3つの操作を行うことで、本機のさまざまな機能を使うことができます。

リモコン

本体と同じなまえのボタンは、本体のボタンと同じ働きをします。

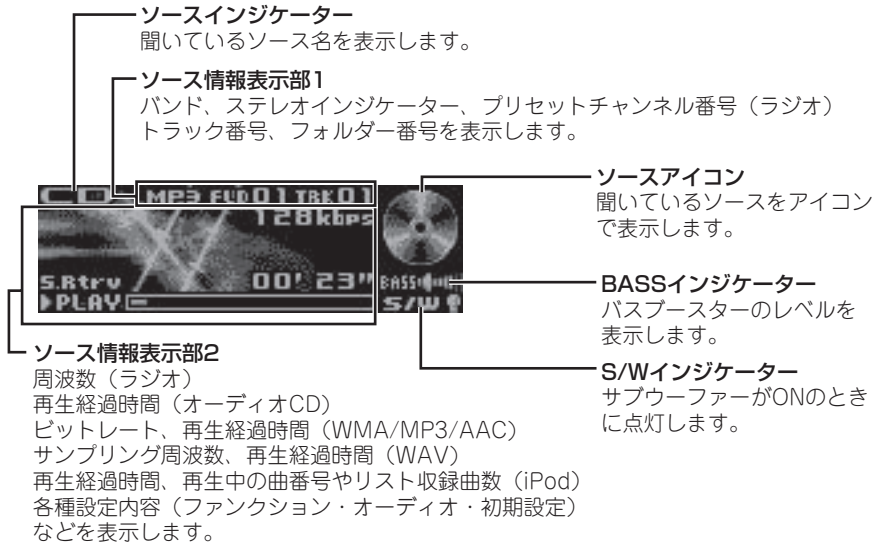


メモ

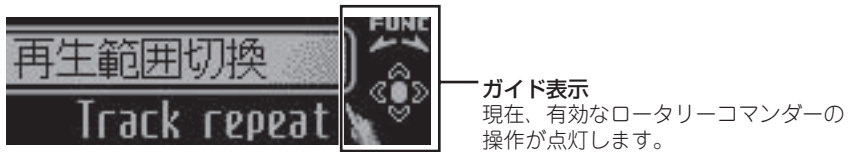
- BAND/ESC ボタンは、本体の BAND/ESC ボタンと同じ働きをします。
- ▲/▼/◀/▶ ボタンは、ロータリーコマンダーの「上、下、左、右に操作する」と同じ働きをします。
- メニューやリスト表示中、ENTER ボタンは、「ロータリーコマンダーを押す」と同じ働きをします。

ディスプレイ

ソース表示



ガイド表示（ファンクション・オーディオ・初期設定）



表示例	内容
	ロータリーコマンドの中心を押して操作 できます。
	上下左右にロータリーコマンドを押して操 作できます。また、ロータリーコマンドの 中心を押しての操作もできます。

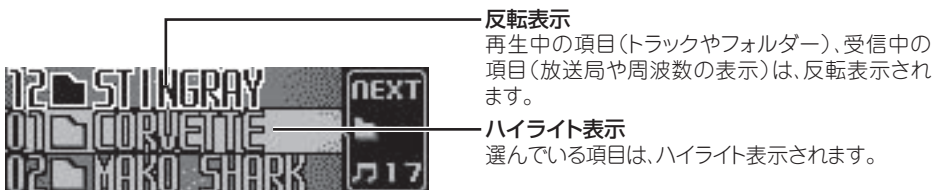


ロータリーコマンドの中心を押して操作
できます。



上下左右にロータリーコマンドを押して操
作できます。また、ロータリーコマンドの
中心を押しての操作もできます。

リスト表示



本機の特徴

多様なメディアと 圧縮フォーマットに対応

本機は、音楽 CD のほか、次のメディアに収録した圧縮オーディオファイルを再生できます。

- CD-R / CD-RW
- USB ポータブルオーディオプレーヤー
- USB メモリー

対応する圧縮フォーマットは、次のとおりです。

- WMA
- MP3
- AAC
- WAV

対応とご注意について詳しくは、(➡「WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルについて」67 ページ)。

また、iPod の接続にも対応しています。

さらに、圧縮フォーマットの楽曲の音を補正する機能として、「アドバンスド・サウンドレトリバー」を搭載しています。この機能により、CD に迫る音質での再生が可能になります。

本機と別売の Bluetooth 用アダプター（例：CD-BTB10）を組み合わせると、Bluetooth 対応のオーディオプレーヤーの再生や Bluetooth 対応の携帯電話でのハンズフリー通話をワイヤレスで実現できます。

USB 機器の接続

対応する USB 機器や接続時のご注意については (➡「USB 機器について」69 ページ、「おもな仕様」77 ページ)。

ご注意

- 本機と組み合わせて使用しているときに USB 機器のデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。
- USB 機器を本機に接続する際は、USB ケーブル（例：CD-U51E）を使用してください。USB ケーブルを使わずに直接接続すると、USB 機器が突起物となり危険です。
- 指定の USB ケーブル以外は、使用しないでください。

iPod の接続

本機は、iPod を本機の USB ポートに接続して操作できます。メインユニット側からの操作はもちろん、「操作設定」によって iPod 側からの操作が可能です。スムーズな選曲が実現できます。対応する iPod や接続時のご注意については (➡「iPod について」70 ページ)。

メモ

- 本書では便宜上、iPod、iPhone を iPod と表記しています。

ご注意

- 本機と組み合わせて使用しているときに iPod のデータが消失しても、消失したデータの補償についてはご容赦ください。

バッテリー上がりを防ぐ ために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源 OFF のときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチを ON (または ACC) にしないでください。バッテリーが上がるおそれがあります。

ご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、本機は初期状態に戻ります。本機が初期状態に戻ると、ラジオのプリセットメモリー、カレンダー設定、時計、オーディオ調整などの設定内容は消去されてしまいます。

ラジオのプリセットメモリーは (➡「放送局を 1 局ずつ登録する」26 ページ)、カレンダー設定は (➡「日付を合わせる」54 ページ)、時計調整は (➡「時計を合わせる」54 ページ) を参照して、再設定してください。オーディオ調整の設定内容などは、メモしておくことをおすすめします。

再設定の方法については、それぞれのページを参照してください。

デモモードについて

本機には、リバースモードとフィーチャーデモの2つのデモモードがあります。

📌 ご注意

- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常に車のバッテリーから電源を供給する電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源をOFFにしても、フィーチャーデモが表示され、バッテリー上がりの原因になります。

リバースモードについて

リバースモードは、各ソースを聞いているときに30秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10秒間隔で行われます。リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチがON（またはACC）のときに本機の電源をOFFにしてBAND/ESCを押してください。もう一度押すと、ONになります。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源OFFのときに、各ソースや本機の機能（ファンクションやエンタテインメントなど）の画面を表示して紹介する機能です。

フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモが表示されているときに🔙/DISP/SCRLを押してください。もう一度押すと、デモが始まります。

車のエンジンを止めた状態でフィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

リモコンの準備

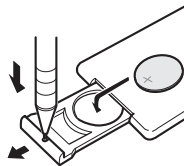
付属のリモコンを使うための準備です。

📌 ご注意

- 初めてお使いになるときは、電池ホルダー部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされていますので、すぐにお使いいただけます。

リモコンに電池を入れる

リモコンを裏返し、電池ホルダーを取り出して、リチウム電池（CR2025）を+側を上にしてセットします。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。

📌 リモコンの取り扱い上のご注意

- リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本体に直射日光が当たっていると、リモコンを操作できないときがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。
- 付属の電池は充電できません。
- リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 電池の液もれが起こったときは、内部に付いた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。
- 本機に付属の電池は、日光や火気など過度の熱が当たる場所に置かないでください。

フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた

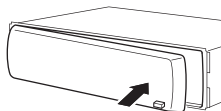
盗難抑制のため、フロントパネルを取り外すことができます（デタッチャブル機構）。

📌 フロントパネルの取り扱い上のご注意

- フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
- 取り外し、取り付けの際に、ディスプレイやボタンを強く持たないでください。
- 落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。故障することがあります。
- 分解しないでください。

- ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけるしないでください。
- 汚れたときは、きれいな乾いた布でふいてください。その場合に、フロントパネルおよび本体の端子部をさわらないようにしてください。接触不良の原因となることがあります。
- フロントパネルのデタッチを行うときは、フロントパネルからAUXケーブル/USBケーブルを取り外してください。取り外さなかった場合は、機器や車両の備品が破損するおそれがあります。

2 フロントパネルの右側を押し、本体に取り付ける

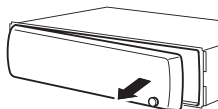


フロントパネルの取り外しかた

1 デタッチボタンを押して、ロックを解除する

2 フロントパネルの左側を持って取り外す

フロントパネルが外れます。



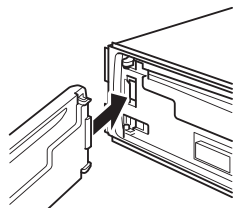
3 フロントパネルを保管する

取り外したフロントパネルは、ケースなどに入れて保管してください。

フロントパネルの取り付けかた

1 フロントパネルの左側を本体にあわせる

“カチッ”と音が聞こえるのを確認してください。



本機のリセットについて

本機を初期設定状態に戻すことができます。

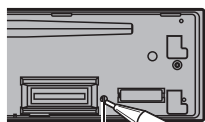
📌 リセットボタンについて

- リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期設定状態（ご購入直後の状態）に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。
 - ・接続が終わった後。
 - ・本機が正しく動作しないとき。
 - ・ディスプレイが正しく表示されないとき。
- リセットボタンを押すと、本機の記憶（時計やラジオのプリセットなど）が消去されます。もう一度、セットしなおしてください。

1 フロントパネルを取り外す

2 本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す

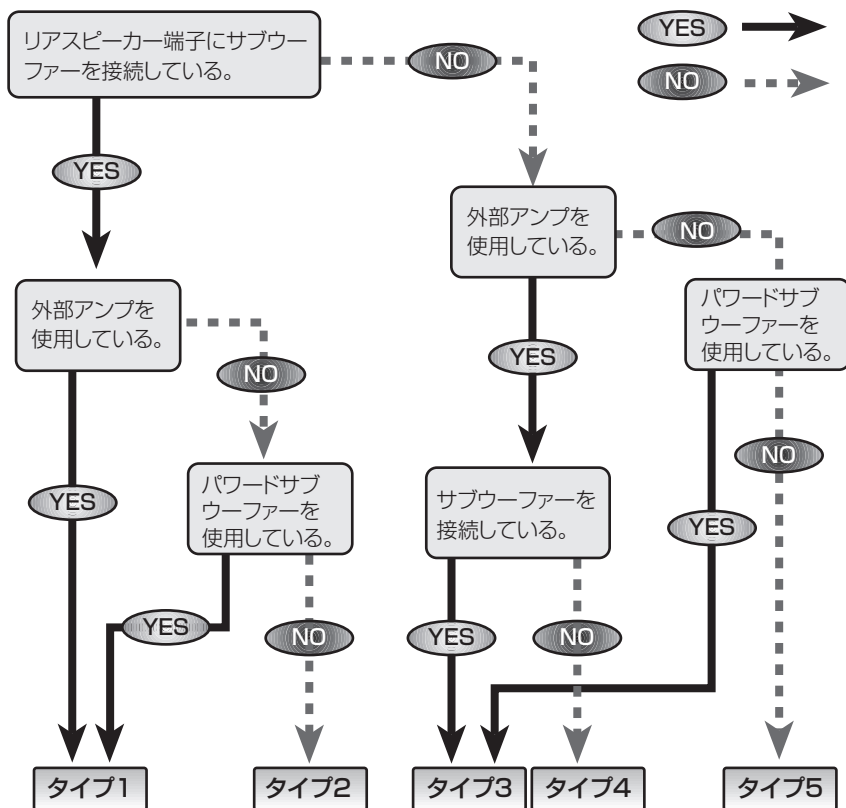


リセットボタン

サブウーファーの設定について

本機にサブウーファーを組み合わせている場合、本機を使ってサブウーファーの設定ができます。サブウーファーの接続方法やシステムによって、サブウーファーの設定方法は大きく異なります。次の表に従い、お手持ちのシステムに合わせて、サブウーファーを正しく設定してください。

はじめに



タイプ 1

※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。

※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターを OFF に設定する。

※パワードサブウーファーの場合は、遮断周波数を最高値に設定する。

1. 初期設定メニューで、S/W コントロール設定を「Rear SP:S/W」にする (➡「リアスピーカー出力を設定する」58 ページ)
2. オーディオ調節メニューで、「Sub W.1」を Normal または Reverse にする (➡「サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え」51 ページ)
3. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う (➡「オーディオ調整メニューの切り換えかた」48 ページ)

タイプ 2

1. 初期設定メニューで、S/W コントロール設定を「Rear SP:S/W」にする (➡初期設定「リアスピーカー出力を設定する」58 ページ)
2. オーディオ調節メニューで、「Sub W.1」を Normal または Reverse にする (➡「サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え」51 ページ)
3. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う (➡「オーディオ調整メニューの切り換えかた」48 ページ)

タイプ 3

※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。

※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターを OFF に設定する。

※パワードサブウーファーの場合は、遮断周波数を最高値に設定する。

1. 初期設定メニューで、S/W コントロール設定を「Rear SP:F.Range」にする (➡「リアスピーカー出力を設定する」58 ページ)
2. 初期設定メニューで、RCA 出力設定を「Subwoofer」にする (➡「RCA 出力から出力される信号を選ぶ」59 ページ)
3. オーディオ調節メニューで、「Sub W.1」を Normal または Reverse にする (➡「サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え」51 ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う (➡「オーディオ調整メニューの切り換えかた」48 ページ)

タイプ 4

※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。

※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターを OFF に設定する。

1. 初期設定メニューで、S/W コントロール設定を「Rear SP:F.Range」にする (➡「リアスピーカー出力を設定する」58 ページ)
2. 初期設定メニューで、RCA 出力設定を「Rear」にする (➡「RCA 出力から出力される信号を選ぶ」59 ページ)

タイプ 5

1. 初期設定メニューで、S/W コントロール設定を「Rear SP:F.Range」にする (➡「リアスピーカー出力を設定する」58 ページ)
2. 初期設定メニューで、RCA 出力設定を「Rear」にする (➡「RCA 出力から出力される信号を選ぶ」59 ページ)

基本的な操作

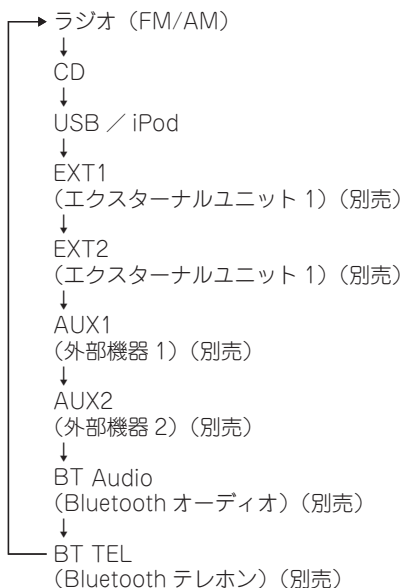
電源 ON・OFF ソース切り換え 音量調節

1 SRC/OFFを押して、電源をONにする

本機の電源がONになります。

2 SRC/OFFを押して、ソースを切り換える

押すごとに次のように切り換わります。



ソースとは

- SRC/OFF を押すと切り換わる、CD やラジオなどの音源のことです。

EXT (エクスターナルユニット) とは

- 本機にソースとして認識されないパイオニア製品 (将来発売される製品など) を、エクスターナルユニットと呼びます。本機は、エクスターナルユニットを計 2 台まで接続してコントロールできます。2 台のエクスターナルユニットを接続した場合、それぞれのユニットは EXT1、EXT2 ソースとして自動的に認識されます。表示は、どちらを選んだ場合も「EXT」になります。(➡「エクスターナルユニットを使う」64 ページ)

3 音量を調節する

ロータリーコマンドナーを回す

大きくするとき：右に回す

小さくするとき：左に回す

約 4 秒間、音量が表示されます。

4 SRC/OFFを長く押して、電源を切る

電源が OFF になります。

メモ

- 音量の調整範囲は 0 ~ 62 です。
- 次の場合にも、電源が ON になります。
 - ・ ディスクを挿入口に差し込んだとき
 - ・ USB/iPod ソース自動切り換え設定が ON の場合に、USB や iPod を接続したとき (➡「USB/IPOD ソースの切り換え方法を設定する」56 ページ)
- 次の場合、該当のソースには切り換わりません。
 - ・ 対応する機器を接続していない
 - ・ ディスクをセットしていない
 - ・ AUX ソースを OFF にしている (➡「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようになる」57 ページ)
 - ・ BT Audio ソースを OFF にしている (➡「Bluetooth Audio ソースを ON にする」61 ページ)
- AUX1 は初期設定では ON に設定されています。使用しない場合は OFF に設定してください。(➡「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようになる」57 ページ)
- 本機の青リード線 (アンテナコントロール) に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。
- CD をセットしたまま電源を OFF にすることもできます。
- 電源が OFF のときでも、▲ を押して CD を取り出すことができます。
- 時計を表示させている場合、電源を OFF にしてもカレンダー、時計は表示されます。

CD のふだんの操作

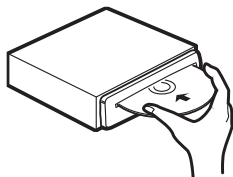
CD を再生する フォルダー・ディスクを選ぶ
曲を選ぶ 早送り・早戻し CD を取り出す

画面例



1 CD を再生する

CD を CD 挿入口に差し込む



↓
CD の再生が始まります。

2 ロータリーコマンドを上下に操作して、フォルダーを選ぶ

次のフォルダーを選ぶ：上に操作する
前のフォルダーを選ぶ：下に操作する

3 ロータリーコマンドを左右に操作して、曲を選ぶ（または早送り／早戻しする）

■ 聞きたい曲を選ぶとき
次の曲を選ぶ：右に操作する
前の曲を選ぶ：左に操作する

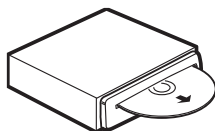
■ 早送り／早戻しをするとき
早送り：右に操作し続ける
早戻し：左に操作し続ける

4 他のソースに切り換えるか、電源をオフにする

再生が終わります

5 ▲ を押して、CD を取り出す

ディスクが出てきます。



📌 ご注意

- ディスクはタイトル面を上にして差し込みます。
- CD 挿入口には、CD 以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
- 「CD TEXT」や「CD-ROM」など、文字情報が記録されたディスクでは、ディスクタイトル、曲名などを表示できません（→「タイトルやアーティスト名を表示させる」24ページ）。表示を切り換えている場合は、ディスクを挿入したときや、他のソースからCDに切り換えたときなどに、タイトルを自動的にスクロール表示します。
- ディスクを挿入すると、本機はディスクからファイル形式などの情報を読みとります。この間、画面には「FORMAT READ」と表示されます。
- 8cm ディスクには対応しておりません。また、アダプターを装着した8cm ディスクも絶対に使用しないでください。
- 圧縮オーディオファイルを早送り／早戻ししているときには、音声は出力されません。
- VBR（可変ビットレート）で録音されたファイルを早送り／早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。
- 出てきたディスクはすぐに取り出して保管してください。CD 挿入口からディスクを出したまま走行すると危険です。
- ▲ を押して CD 再生をやめたときは、自動的に電源 OFF になります。
- CD/CD-R/CD-RW を使用するときのご注意については、→「CD の正しい使いかた」66 ページ。

📝 知っているとも便利

- 圧縮オーディオファイル再生時は、BAND/ESC を長く押すと、フォルダー 01 (ROOT) に戻ります。ただし、フォルダー 01 (ROOT) にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。
- ディスクをセットしたまま、電源を OFF にしたり他のソースに切り換えることができます。
- 圧縮オーディオファイルと音楽データが混在しているディスクの場合、切り換えて再生できます。切り換えるときは、BAND/ESC を押します。再生は、それぞれ一番最初の曲から始まります。

ラジオのふだんの操作

バンドを選ぶ 放送局を選ぶ

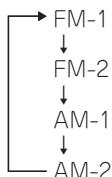
画面例



1 SRC/OFFを押して、ソースをラジオにする

2 BAND/ESCを押して、バンドを選ぶ

押すごとに、次の順序でバンドが切り換わります。



3 ロータリーコマンドを左右に操作して、放送局を選ぶ

■ 手で選ぶとき（手動選局）

高い周波数の放送局を選ぶ：

右に操作する

低い周波数の放送局を選ぶ：

左に操作する

■ 自動で選ぶとき（自動選局）

高い周波数の放送局を自動で選ぶ：


右に長く操作して離す

低い周波数の放送局を自動で選ぶ：

左に長く操作して離す

4 他のソースに切り換えるか、電源をオフにする

ラジオの受信が終わります

 知っていると便利

- バンドごとに放送局を6局ずつ登録できます（▶「放送局を1局ずつ登録する」26ページ、「複数の放送局を自動的に登録する」27ページ）。
- ロータリーコマンドを左右に操作している間、途中の放送局を飛ばすことができます。離れたところから自動選局を開始します。
- 電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

USB 機器のふだんの操作

USB 機器の曲を再生する フォルダerを選ぶ
曲を選ぶ 早送り・早戻し

画面例



1 USBポートのカバーを開けて、USB機器を接続する

2 SRC/OFFを押して、ソースをUSBに切り換える

3 ロータリーコマンドerを上下に操作して、フォルダerを選ぶ

次のフォルダerを選ぶ：上に操作する
前のフォルダerを選ぶ：下に操作する

4 ロータリーコマンドerを左右に操作して、曲を選ぶ（または早送り／早戻しする）

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ：右に操作する
前の曲を選ぶ：左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に操作し続ける
早戻し：左に操作し続ける

5 USB機器を外す。ほかのソースに切り換える。または、電源をオフにする

USBの再生が終わります

 **ご注意**

- USB 機器を本機に接続する際は、USB ケーブル（例：CD-U51E）を使用してください。USB ケーブルを使わずに直接接続すると、USB 機器が突起物となり危険です。指定の USB ケーブル以外は、使用しないでください。
- 対応する USB 機器をご使用ください。ただし、対応する USB 機器でも正しく動作しない場合があります。（⇒「USB 機器について」69 ページ）。
- USB 機器を使用するときのご注意については、⇒「USB 機器について」69 ページ。
- USB/iPod ソース自動切り換え設定が ON の場合、USB 機器によっては、接続したままエンジンを OFF から ON にしたとき、意図せずに USB ソースに切り換わることがあります。必要に応じて設定を切り換えてください（⇒「USB/iPod ソースの切り換え方法を設定する」56 ページ）。
- 早送り／早戻ししているときには、音声は出力されません。

 **メモ**

- USB 機器を接続したまま、電源を OFF にしたり他のソースに切り換えることができます。
- USB 機器は、いつでも本機から取り外すことができます。
- BAND/ESC を長く押しと、フォルダer 01 (ROOT) に戻ります。ただし、フォルダer 01 (ROOT) にファイルがない場合は、次のフォルダer から再生が始まります。
- 本機には、フォルダer / ファイルリストと Music ブラウズの 2 種類の選曲方法があります。選曲方法の切り換えは、初期設定で行います（⇒「曲のさがしかたを設定する」56 ページ）。
- USB 機器にバッテリー充電機能がある場合、エンジンスイッチが ACC または ON になっているときに USB 機器のバッテリーが充電されます。
- USB ソースでは、接続した USB 機器の情報を読みとる間、「FORMAT READ」と表示されます。USB 機器の情報を読みとるため、再生までに時間がかかります。

iPod のふだんの操作

iPod の曲を再生する 曲を選ぶ 早送り・早戻し

iPod Dock コネクタ (USB2.0 ケーブル用) を使用して iPod を本機に接続をして操作できます。

画面例



1 USBポートのカバーを開けて、iPodを接続する

2 SRC/OFFを押して、ソースをiPodに切り換える

3 曲を選ぶ (または早送り／早戻しする)

ロータリーコマンドを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ：右に操作する

前の曲を選ぶ：左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に操作し続ける

早戻し：左に操作し続ける

4 iPodを外す。ほかのソースに切り換える。または、電源をオフにする

iPod の再生が終わります

注意

- 再生範囲が1曲リピートのときは、ロータリーコマンドを左右に操作して曲を選ぶことはできません。
- iPodにはiPod用USB変換ケーブルのみを接続してください。iPod用USB変換ケーブル以外のものを接続すると、本機が正常に動作しないことがあります。
- 本機に接続する前に、iPodからヘッドホンを外してください。
- iPodを使用するときのご注意やiPodの設定については → 「iPodについて」70ページ。

メモ

- 再生しているオーディオブックやPodcastにチャプターがある場合、ロータリーコマンドを左右に操作して、チャプターが選べます。
 - ・次のチャプターを選ぶ：右に操作する
 - ・前のチャプターを選ぶ：左に操作する
- エンジンスイッチがACCまたはONになっている場合、iPodのバッテリーが充電されます。
- 「操作設定」を「AUDIO」に設定した場合、iPodは本機に接続されている間、iPod自身で電源をON/OFFすることはできません (→ 「iPodから本機のiPod機能を操作する」35ページ)。
- エンジンスイッチをOFFにして約2分後に、本機に接続されているiPodの電源もOFFになります。

よく使う機能をボタンで すぐに操作する

🔍 ボタン

押すと、ソースごとに異なるリストが表示されます。

- CD ➔ 25 ページ
- ラジオ ➔ 27 ページ
- USB ➔ 30 ページ
- iPod ➔ 31 ページ
- BT Phone ➔ 44 ページ

S.Rtrv ボタン

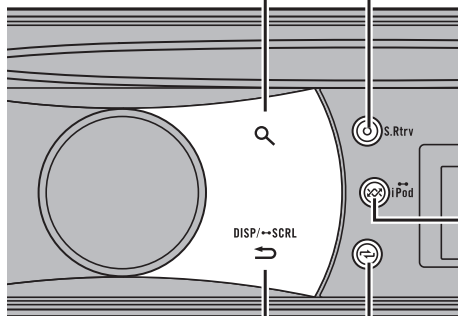
CD、USB、iPod ソースのときに押すと、サウンドレトリバーの設定を切り換えることができます (➔ 24、29、33 ページ)。

🔀(ランダム) / iPod ボタン

CD、USB ソースのときに押すと、「ランダムプレイ」を ON / OFF できます (➔ 23、29、33 ページ)。

iPod ソースのときに押すと、「シャッフルオール設定」が ON になります (➔ 34 ページ)。

iPod ソースのときに長く押すと、「操作設定」の設定が切り換わります (➔ 35 ページ)。



⏪ / DISP / SCRL ボタン

押すたびに、ディスプレイの表示を切り換えることができます。

長く押すと、ディスプレイの表示をスクロールできます。リスト表示中も同様に、ディスプレイの表示をスクロールできます。もう一度押すと、通常が表示に戻ります。



メモ

- ディスプレイの表示を変えられないソースもあります。

🔁(リピート) ボタン

CD、USB、iPod ソースのときに押すと、再生範囲の設定を切り換えることができます (➔ 22、29、33 ページ)。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



CDを聞く

使いたい機能を選ぶ

1 SRC/OFFを押して、ソースをCDにする

2 ロータリーコマンドーを押す

メインメニューが表示されます


3 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

4 ロータリーコマンドーを回す


ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

- 再生範囲切換
(⇒「繰り返し再生する」)
- ↓
- ランダムプレイ設定
(⇒「違う曲順で再生する」23 ページ)
- ↓
- ポーズ設定
(⇒「再生を一時停止する」23 ページ)
- ↓
- サウンドレトリバー設定
(⇒「音を補正して高音質化する」24 ページ)

 知っていると便利

- リモコンのFUNCTIONを押して、機能を選ぶこともできます。

 メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESCを押します。
- ひとつ前の画面に戻るには  /DISP/SCRLを押します。

繰り返し再生する

リピート

曲を繰り返し(リピート)再生できます。繰り返しの範囲は、いま聞いている曲やディスク全体などから選べます。選べる範囲は、ソースやディスクによって異なります。

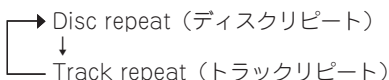
1 再生範囲切換にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」)

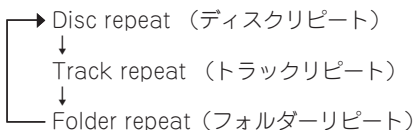
2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で再生範囲が切り換わります

■ CD を再生しているとき



■ WMA / MP3 / AAC / WAV を再生しているとき



Disc repeat :

いま聞いているディスクを繰り返し再生します。

Track repeat :

いま聞いている曲を繰り返し再生します。

Folder repeat :

いま聞いているフォルダーを繰り返し再生します。

3 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

- 選んだ再生範囲は、「ランダムプレイ設定」の再生範囲に影響します。
- フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲だけを再生します。サブフォルダー内の曲は、再生しません。
- 再生範囲の切り換えは、 (リピート) でも操作できます。(→「よく使う機能をボタンですぐに操作する」21 ページ)

違う曲順で再生する

ランダム

曲を順不同(ランダム)に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 ランダム再生する範囲を選んだしておく

ランダムプレイは、再生範囲切換で選んだ範囲で行われます

(→「繰り返し再生する」22 ページ)

2 ランダムプレイ設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ(→「ファンクションメニューの切り換えかた」22 ページ)

3 ロータリーコマンドーを押す

ランダムプレイ設定が ON になります

次の曲から、ランダムに再生されます。もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

- 再生範囲がトラックリピートのときにランダムプレイ設定を ON にすると、再生範囲が次のように切り換わってランダムプレイが行われます。
CD : ディスクリピート
圧縮オーディオファイル : フォルダーリピート

知っている则便利

- ランダムプレイ設定の ON/OFF の切り換えは、 (ランダム) / iPod でも操作できます。(→「よく使う機能をボタンですぐに操作する」21 ページ)

再生を一時停止する

ポーズ

曲の再生を一時停止できます。

1 ポーズ設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ(→「ファンクションメニューの切り換えかた」22 ページ)

2 ロータリーコマンドを押す

再生を一時停止します
もう一度押すと、OFFになります。

3 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

音を補正して高音質化する

サウンドレトリバー

音の密度感や抑揚感を向上させて再生できます。

1 アドバンスド・サウンドレトリバーとは

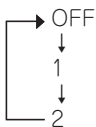
- 圧縮音声は圧縮処理される際に、人が感じ取りにくい部分の音声削除されてしまいます。アドバンスド・サウンドレトリバー機能では、削除された部分の音声を補うことによって、音の密度感や抑揚感を向上させて再生します。

1 サウンドレトリバー設定にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換えかた」22 ページ)

2 ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに、次の順序で設定が切り換わります



メモ

- 1 は低圧縮率の音声、2 は高圧縮率の音声に適しています。

3 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

知っている则便利

- サウンドレトリバー設定の切り換えは、S.Rtrv でも操作できます。(➡「よく使う機能をボタンですぐに操作する」21 ページ)

タイトルやアーティスト名を表示させる

タイトル表示

トラックタイトルやディスクタイトル、アーティスト名などを表示させることができます。また、隠れている文字をスクロール表示させることもできます。

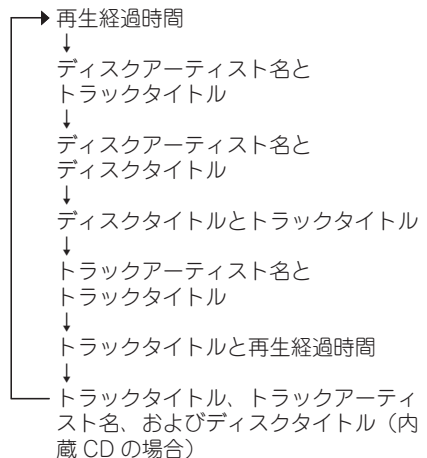
1 SRC/OFFを押して、ソースをCD (USBの場合はUSB) にする

➡「基本的な操作」16 ページ

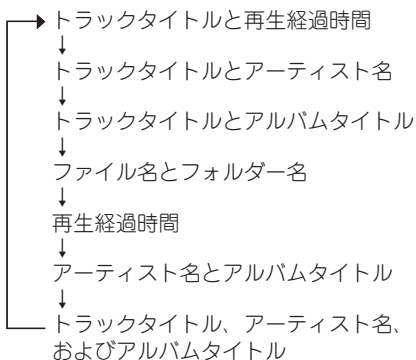
2 ≡/DISP/SCRL を押す

≡/DISP/SCRL を押すごとに、次の順序で切り換わります

■ CD TEXT を再生しているとき



■ WMA / MP3 / AAC / WAV を再生しているとき



2 Qを押して、トラック／ファイル／フォルダーリストを表示する

3 ロータリーコマンドを回して、曲名、ファイル名、フォルダー名を切り換える

- 次の曲／ファイル／フォルダーを選ぶ
：右に回す
前の曲／ファイル／フォルダーを選ぶ
：左に回す

4 フォルダーの表示時に、ロータリーコマンドを押して、そのフォルダー内のフォルダー／ファイルを表示する

メモ

- フォルダーが表示されているときにロータリーコマンドを長く押すと、そのフォルダー内のはじめの曲から再生されます。

5 曲やファイルの表示時に、ロータリーコマンドを押して、再生する

メモ

- ロータリーコマンドを上下に操作して、フォルダー名やファイル名を切り換えることもできます。
- 再生は、曲やファイルの表示時にロータリーコマンドを右に操作することでも可能です。
- 前のリスト（1つ上の階層のフォルダー）に戻るには、**⇐**/DISP/SCRLを押します。この操作は、ロータリーコマンドを左に操作することでも可能です。
- 最上位の階層に戻るには、**⇐**/DISP/SCRLを長く押します。
- リスト表示中にふだんの再生画面に戻るには、BAND/ESCまたは**Q**を押します。
- トラック／フォルダー／ファイルリストは、必ず先頭・ROOTから表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、「NO FILES」と表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、ロータリーコマンドを押しても再生されません。
- トラック／フォルダー／ファイルリストは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

知っていると便利

- 隠れている文字を表示させるには、**⇐**/DISP/SCRLを長く押します。

メモ

- 本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
- タイトル名などが収録されていないディスクで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。
- ファイルをエンコード／ライティングしたアプリケーションによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- WMP11を使用してWAVファイルをエンコードしたときに、WAVファイルのファイル名などを表示させることができます。

タイトルから曲やフォルダーをさがす

「CD TEXT」や圧縮オーディオの再生中に、曲名、ファイル名、フォルダー名の一覧（トラック／ファイル／フォルダーリスト）を見ながら、聞きたい曲、ファイル、フォルダーを選べます。

1 SRC/OFFを押して、ソースをCD（USBの場合はUSB）にする

→ 「基本的な操作」16ページ

放送局を1局ずつ登録する

プリセットメモリー

よく聞く放送局を1局ずつ手動で登録できます(プリセットメモリー)。登録した放送局は、手軽に受信できます。

1 BAND/ESC を押す

登録するバンドを選ぶ

2 ロータリーコマンダーを左右に操作する

登録したい放送局を選ぶ

3 Qを押す

ステーションリストが表示されます

4 ロータリーコマンダーを回す

登録したいプリセット番号を選ぶ
プリセット番号は1~6の中から選べます。

5 ロータリーコマンダーを長く押す

放送局が登録されます

登録動作中に押したプリセット番号(登録番号)が点滅します。

登録が完了するとプリセット番号の点滅が終わり、その放送局を受信します。

登録した放送局を呼び出す

プリセットチューニング

BSM やプリセットメモリーで登録した放送局を、手軽に受信できます。

1 BAND/ESC を押す

放送局を登録したバンドを選ぶ

2 ロータリーコマンダーを上下に操作する

プリセット番号順に放送局を受信する

ファンクションメニューの切り換えかた

「複数の放送局を自動的に登録する」「放送局名を選ぶ」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 SRC/OFFを押して、ソースをTUNERにする

2 ロータリーコマンダーを押す

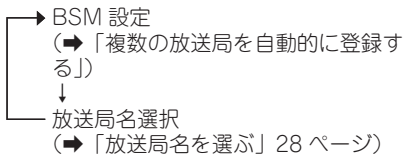
メインメニューが表示されます

3 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンダーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンダーを押す

4 ローターリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります



知っている则便利

- リモコンのFUNCTIONを押して、機能を選ぶこともできます。

メモ

- ふだんの受信画面に戻るときは、BAND/ESCを押します。(30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)
- ひとつ前の画面に戻るには **⏪**/DISP/SCRL を押します。

複数の放送局を自動的に登録する

BSM

受信状態の良い放送局を自動でさがして登録できます。登録された放送局は、手軽に受信できます。

BSMとは

- BSMは、「Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)」の略です。

1 BAND/ESC を押す

登録するバンドを選ぶ

2 BSM 設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」)

3 ローターリーコマンドーを押す

BSMによる登録が始まります

登録が完了するとステーションリストに切り換わり、1のプリセット番号に登録された放送局を受信します。

メモ

- 登録動作中にロータリーコマンドーを押すと、BSMの登録処理を途中でやめることができます。

4 ローターリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに放送局が切り換わります

次の放送局を選ぶとき: 右に回す
前の放送局を選ぶとき: 左に回す

5 聞きたい放送局を選んでいるときに、ロータリーコマンドーを押す

選んだ放送局が受信されます

メモ

- 受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、前に登録した内容が残ることがあります。
- ふだんの受信画面に戻るときは、BAND/ESCを押します。(30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの受信画面に戻ります。)

放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す

ステーションリスト

1～6のプリセット番号に登録した放送局を、放送局名の一覧(ステーションリスト)の中からさがすことができます。

1 BAND/ESC を押す

バンドを選ぶ

2 🔍 を押す

ステーションリストが表示されます

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに放送局名が切り換わります

次の放送局を選ぶとき：右に回す

前の放送局を選ぶとき：左に回す

4 聞きたい放送局を選んでいるときに、ロータリーコマンドーを押す

選んだ放送局が受信されます



知っているとお便利

- ロータリーコマンドーを長く押すと、選んでいるプリセット番号に、現在受信している放送局を登録することができます。



メモ

- リスト表示については (➡「各部のなまえ」9 ページ)
- 表示されている放送局名が受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更することができます。(➡「放送局名を選ぶ」)
- 放送局名が登録されていない放送局の場合、周波数が表示されます。
- ふだんの受信画面に戻るときは、BAND/ESC を押します。(30 秒間、何も操作しないと自動的にふだんの受信画面に戻ります。)

放送局名を選ぶ

放送局名選択

受信している放送局の放送局名を選べます。表示されている放送局名が、受信している放送局の名称と異なる場合、正しい放送局名に変更することができます。



ご注意

- 本機に登録されていない放送局名は選べません。

1 実際の放送局名と表示が異なる場合、放送局名選択にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (➡「ファンクションメニューの切り換えかた」26 ページ)

2 ロータリーコマンドーを左右に操作する

放送局名を選ぶ

次の放送局名を選ぶとき：右に操作する

前の放送局名を選ぶとき：左に操作する

3 ロータリーコマンドーを押す

選んだ放送局名に変更されます

4 BAND/ESC を押す

ふだんの受信画面に戻ります



知っているとお便利

- 放送局名を表示させたくないときは、すべて空白の表示を選びます。
- パイオニア製の FM モジュレータータイプのマルチ CD をお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を「FM M-CD」に変更できます。
- パイオニア製の TV を FM モジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を「TVsound」に変更できます。



メモ

- 選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていない場合、「放送局データなし」と表示されます。

放送局名を表示する

放送局名表示

受信している放送局の放送局名を表示できます。

1 ⇨ / DISP / SCRL を押す

放送局名が表示されます

もう一度押すと放送局名表示が消えます。



知っているとお便利

- 表示されている放送局名が、受信している放送局の名称と異なる場合、正しい放送局名に変更できます。(➡「放送局名を選ぶ」)

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 SRC/OFFを押して、ソースをUSBにする

2 ロータリーコマンドを押す

メインメニューが表示されます

3 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドを押す

4 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

- 再生範囲切替 (⇒「繰り返し再生する」)
- ↓
- ランダムプレイ設定 (⇒「違う曲順で再生する」)
- ↓
- ポーズ設定 (⇒「再生を一時停止する」)
- ↓
- サウンドレトリバー設定 (⇒「音を補正して高音質化する」)

知っているとも便利

- リモコンのFUNCTIONを押して、機能を選ぶこともできます。

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESCを押します。(30秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)
- ひとつ前の画面に戻るには ⏪ / DISP / SCRL を押します。

ファンクションメニューの機能は、CDの場合と基本的に同じです。操作方法については、CDのページをご覧ください。

機能 操作

(⇒「繰り返し再生する」22ページ)
切り換わる再生範囲は、CDの場合とは異なります。

- All repeat (オールリピート)
- ↓
- Track repeat (トラックリピート)
- ↓
- Folder repeat (フォルダリピート)

再生範囲切替

All repeat :
すべての曲を繰り返し再生します。

Track repeat :
いま聞いている曲を繰り返し再生します。

Folder repeat :
いま聞いているフォルダーを繰り返し再生します。

ランダムプレイ設定 (⇒「違う曲順で再生する」23ページ)

ポーズ設定 (⇒「再生を一時停止する」23ページ)

サウンドレトリバー設定 (⇒「音を補正して高音質化する」24ページ)

タイトルやアーティスト名を表示させる

タイトル表示

トラックタイトルやアーティスト名などを表示できます。また、隠れている文字をスクロールすることもできます。操作方法は、CDの場合と同じです (⇒35ページ)。

ご注意

- Musicブラウズモードで使用しているときは、ファイル名とフォルダー名は表示しません。

タイトルを見て聞きたいフォルダーや曲をさがす

フォルダー／ファイルリスト

ファイル名やフォルダー名の一覧（フォルダー／ファイルリスト）を見ながら、聞きたいファイルやフォルダーを選べます。操作方法は、CDの場合と同じです（➡24ページ）。



ご注意

- この機能は、初期設定メニューの「曲のさがしかたを設定する」（56ページ）でOFFに設定したときに、使用できます。

聞きたい曲をさがす

Music ブラウズ

ジャンル、アーティスト、アルバムなどの項目から、お好みの曲を選んで再生できます。



ご注意

- この機能は、初期設定メニューの「曲のさがしかたを設定する」（56ページ）でONに設定したときに、使用できます。
- アーティスト、アルバム、曲、ジャンルの各項目から検索するために、データベースを構築します。データベースの構築には、1000曲あたり70秒程度の時間が掛かります。通常は、3000曲程度を推奨します。また、ファイルによっては、さらに時間が掛かることがあります。
- USB機器に保存してあるファイルの数によっては、リストの表示に時間がかかる場合があります。
- データベース、またはリスト構築中は、キーが効かないことがあります。
- 本機の電源がON/OFFされるごとに、リストを再構築します。

1

Q を押す

Music ブラウズモードになります

2

項目を選ぶ

ロータリーコマンドナーを回して項目を選び、ロータリーコマンドナーを押す

アーティスト、アルバム、曲、ジャンルの中から選べます。

3

項目を絞り込む

手順2の操作を繰り返して、項目を絞り込むことができます。

4

お好みの曲を選ぶ

ロータリーコマンドナーを回してお好みの曲を選び、ロータリーコマンドナーを押す

お好みの曲の再生が始まります。



知っていると便利

- ロータリーコマンドナーを上下に操作して、項目を選ぶこともできます。
- ロータリーコマンドナーを左に操作すると、前の項目（1つ上の階層）に戻ります。
- 再生したい項目を選んでおき、ロータリーコマンドナーを長く押すと、その項目内の曲を最初からすべて再生できます。ロータリーコマンドナーを右に長く操作することも可能です。
- ロータリーコマンドナーを右に操作して、項目を選ぶこともできます。
- 最上位の階層に戻るには、ロータリーコマンドナーを左に長く操作します。
- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESCを押します。（30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。）
- リスト表示については（➡「各部のなまえ」9ページ）

チャプターを選ぶ

再生しているオーディオブックにチャプターがある場合、チャプターを選べます。

1 ロータリーコマンドを左右に操作する

チャプターが切り換わります

次のチャプターを選ぶとき：右に操作する
前のチャプターを選ぶとき：左に操作する

聞きたい曲をさがす

ミュージック (ブラウズ)

ジャンル、アーティスト、アルバムなどの項目から、お好みの曲を選んで再生できます。

ご注意

- iPod に保存してあるファイルの数によっては、項目の表示に時間がかかる場合があります。
- 本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。
- iPod アダプターを使用している場合、「作曲者」「Podcast」「オーディオブック」は選べません。

1 Q を押す

ブラウズモードになります

2 項目を選ぶ

ロータリーコマンドを回して項目を選び、ロータリーコマンドを押す

プレイリスト、アーティスト、アルバム、曲、Podcast (ポッドキャスト)、ジャンル、作曲家、オーディオブックの中から選べます。

3 項目を絞り込む

手順 2 の操作を繰り返して、項目を絞り込むことができます。

4 お好みの曲を選ぶ

ロータリーコマンドを回してお好みの曲を選び、ロータリーコマンドを押す

お好みの曲の再生が始まります。

知っている则便利

- ロータリーコマンドを上下に操作して、項目を選ぶこともできます。
- ロータリーコマンドを左に操作すると、前の項目 (1つ上の階層) に戻ります。
- アルファベット順に表示する項目のときに、Q を押すと、アルファベットサーチモードになります。(➡「リスト表示をアルファベットで検索する」)
- 再生したい項目を選んでおきにロータリーコマンドを長く押すと、その項目内の曲を最初からすべて再生できます。ロータリーコマンドを右に長く操作することでも可能です。
- ロータリーコマンドを右に操作して、項目を選ぶこともできます。
- 最上位の階層に戻るには、ロータリーコマンドを左に長く操作します。
- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC を押します。(30秒間、何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。)
- リスト表示については (➡「各部のなまえ」9ページ)

リスト表示をアルファベットで検索する

アルファベットサーチ

アーティストやアルバムなどのリスト表示中に、頭文字のアルファベットを指定して検索できます。

ご注意

- アルファベット順に表示されるリストのときに操作できます。
- 頭文字が、半角のアルファベット、数字、および記号で記録されているものが対象です。

1 アーティストやアルバムなどのリストを表示する

「聞きたい曲をさがす」の手順 1～4 を参照して、アーティストやアルバムなどのリストを表示する

(⇒「聞きたい曲をさがす」31 ページ)

2 リスト表示中に **Q** を押す

アルファベットサーチモードに切り換わります

もう一度 **Q** を押すと、アルファベットサーチモードを解除します。

3 アルファベットを選ぶ

ロータリーコマンドを回して検索したいアルファベットを表示し、ロータリーコマンドを押す

指定したアルファベットを先頭にして、リストが表示されます。



ご注意

- 対象となる曲がなかったときは、「NOT FOUND」が表示されたあとリスト表示に戻ります。

4 お好みの曲を選ぶ

ロータリーコマンドを操作してお好みの曲を選ぶ

(⇒「聞きたい曲をさがす」31 ページ)

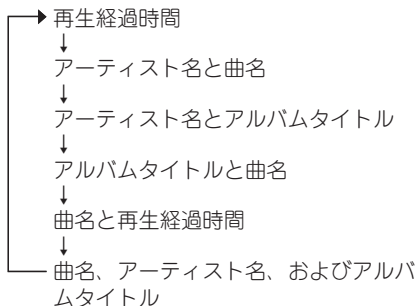
タイトルやアーティスト名を表示させる

タイトル表示

iPod に記録されている曲名やアーティスト名、アルバムタイトルなどを表示させることができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見えることもできます。

1 **↵**/DISP/SCRL を押す

↵/DISP/SCRL を押すごとに、次の順序で切り換わります



知っていると便利

- 隠れている文字を表示させるには、**↵**/DISP/SCRL を長く押しします。



メモ

- 本機の文字表示は、ひらがなや漢字などにも対応しています。
- 本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。

ファンクションメニューの切り換えかた

「繰り返し再生する」「違う曲順で再生する」などの便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 SRC/OFFを押して、ソースを iPod にする

2 ロータリーコマンドを押す

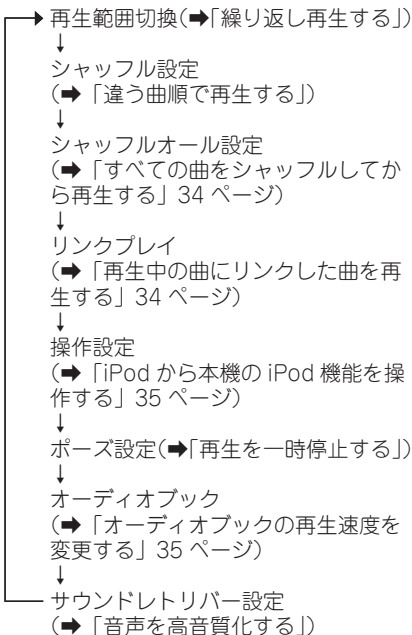
メインメニューが表示されます

3 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドを押す

4 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります



知っていると便利

- リモコンの FUNCTION を押して、機能を選ぶこともできます。

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC を押します。(30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に戻ります。)
- ひとつ前の画面に戻るには、**⏪**/DISP/SCRL を押します。

- 「操作設定」を「iPod」にした場合、「操作設定」、「ポーズ設定」、「サウンドレトリバー設定」以外には切り換わりません。

ファンクションメニューの以下の機能は、CD の場合と基本的に同じです。操作方法については、CD のページをご覧ください。

機能	操作
再生範囲切換	(⇒「 繰り返し再生する 」22 ページ) 切り換わる再生範囲は、CD の場合とは異なります。 Repeat one (1 曲リピート) ↓ Repeat All (リスト内全曲リピート) Repeat one : いま聞いている曲を繰り返し再生します。 Repeat All : いま聞いているリスト内のすべての曲を繰り返し再生します。
ポーズ設定	(⇒「 再生を一時停止する 」23 ページ)
サウンドレトリバー設定	(⇒「 音を補正して高音質化する 」24 ページ)

違う曲順で再生する

シャッフル再生

曲やアルバムを順不同 (ランダム) に再生できます。いつもと違った曲順で音楽を楽しみたいときに便利です。

1 シャッフル設定にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ (⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」32 ページ)

2 ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに、次の順序でシャッフル設定が切り換わります



Shuffle Songs :

いま聞いているリスト内の曲をランダムに再生します。

Shuffle Albums :

アルバムをランダムに選び、選んだアルバム内の曲を順番通りに再生します。

3 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

すべての曲をシャッフルしてから再生する

全曲シャッフル

iPod のミュージックライブラリ内のすべての曲を順不同 (ランダム) に再生できます。

1 シャッフルオール設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (→「ファンクションメニューの切り換えがた」32 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

「ON」が2秒間表示され、全曲シャッフル再生が始まります。

3 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります




メモ

- 全曲シャッフルを解除するには、「シャッフル設定」で「Shuffle OFF」を選びます。(→「違う曲順で再生する」)



知っているとう便利

- シャッフルオールの設定は  (ランダム) / iPod でも操作できます。(→「よく使う機能をボタンですぐに操作する」21 ページ)

再生中の曲にリンクした曲を再生する

リンクプレイ

アーティストの他のアルバムや曲を聞きたくなったときに便利です。



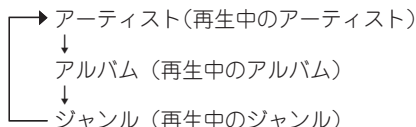
ご注意

- iPod に保存してあるファイルの数によっては、リストの表示に時間がかかる場合があります。
- リンクのサーチ条件に関連したリストがない場合は、「見つかりません」と表示されます。
- 曲によっては、切り換わる際に終わりや始まりの音が切れる場合があります。

1 リンクプレイにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (→「ファンクションメニューの切り換えがた」32 ページ)

2 ロータリーコマンドーを左右に操作して、リンク元を切り換える



3 ロータリーコマンドーを押して、リンク元を選ぶ

リンク元に関連した曲が再生されます
アーティスト：再生中のアーティストの曲
アルバム：再生中のアルバムに収録されている曲
ジャンル：再生中のジャンルの曲

4 アルバムまたは曲を選ぶ

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (→「聞きたい曲をさがす」31 ページ)



知っているとう便利

- リンクプレイは、ふだんの再生画面でロータリーコマンドーを長く押ししても、操作できます。(→「よく使う機能をボタンですぐに操作する」21 ページ)

iPod から本機の iPod 機能进行操作する

操作設定

接続した iPod から本機の iPod 機能进行操作できます。

📌 ご注意

- 以下の iPod では本機能は使用できません。
 - ー 第 5 世代 iPod
 - ー 第 1 世代 iPod nano
- 最新の情報については、カロッツェリアホームページ (<http://carrozzeria.jp>) をご覧ください。

1 操作設定にする

ロータリーコマンドー进行操作して選ぶ (→「ファンクションメニューの切り換えかた」32 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

押すごとに「iPod」と「AUDIO」が切り換わります

iPod :

iPod で選曲などの操作をします。

AUDIO :

本機で選曲などの操作をします。


3 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

📌 ご注意

- 「iPod」に設定した場合は、以下の制限があります。
 - ー ファンクションメニューの機能は、「操作設定」、「ポーズ設定」、「サウンドレトリバー設定」以外には切り換わりません。
 - ー ブラウズモード (→「聞きたい曲をさがす」31 ページ) には切り換わりません。
 - ー 音量は本機からしか調節できません。
- 「iPod」に設定すると、再生は停止されます。iPod を操作して、再生してください。

📌 知っているると便利

- コントロールモードの切り換えは  (ランダム) / iPod でも操作できます。(→「よく使う機能をボタンですぐに操作する」21 ページ)
- 「操作設定」を「iPod」設定していても、本機から次の操作ができます。
 - ー 音量の調節
 - ー 選曲
 - ー 早送り / 早戻し
 - ー タイトルの表示切り換え

オーディオブックの再生速度を変更する

オーディオブック

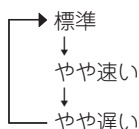
オーディオブックの再生中に、オーディオブックの再生速度を変更できます。

1 オーディオブックにする

ロータリーコマンドー进行操作して選ぶ (→「ファンクションメニューの切り換えかた」32 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを押すごとに、次の順序で再生速度が切り換わります



3 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

Bluetooth アダプターの 組み合わせについて

本機と Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10」）を組み合わせ、Bluetooth 対応のオーディオプレーヤーを使用することができます。ここでは、基本的な操作方法を説明しています。詳しくは、組み合わせた Bluetooth アダプターの取扱説明書をご覧ください。



メモ

- 組み合わせる Bluetooth 対応機器によっては、操作や動作が異なる場合があります。Bluetooth 対応機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

BT Audio のふだんの 操作

Bluetooth 対応機器を本機のソースとして使用できます。



ご注意

- Bluetooth 対応機器を本機の BT Audio ソースとして使用する場合、以下の設定を行う必要があります。
 - － BT Audio ソースを ON にする（⇒「Bluetooth Audio ソースを ON にする」61 ページ）
 - － パスコードを編集する（⇒「Bluetooth のパスコードを変更する」61 ページ）
 - － Bluetooth 接続する（⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」）

1

ソースを BT Audio にする

SRC/OFF を押す

2

ロータリーコマンドを左右に操作する

■ 聞きたい曲を選ぶとき

次の曲を選ぶ：右に操作する

前の曲を選ぶ：左に操作する

■ 早送り／早戻しをするとき

早送り：右に操作し続ける

早戻し：左に操作し続ける

3

BT Audio の再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源を OFF にする



メモ

- 組み合わせる Bluetooth 対応機器によっては、早送り／早戻し中に音声が出ない場合があります。

ファンクションメニューの 切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1

SRC/OFFを押して、ソースを BT Audio にする

2

ロータリーコマンドを押す

メインメニューが表示されます

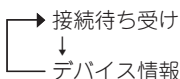
3 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドーを押す

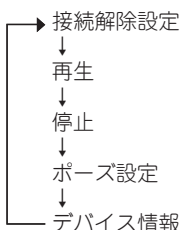
4 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

■ BT Audio が接続されていないとき



■ BT Audio が接続されているとき



5 選んだ機能を実行する

接続待ち受け

ロータリーコマンドーを押すと、Bluetooth 対応機器の接続待ち受け状態になります。Bluetooth 対応機器を操作して、本システムと接続します。

接続解除設定

ロータリーコマンドーを押すと、Bluetooth 接続を解除します。

再生

ロータリーコマンドーを押すと、Bluetooth 対応機器の再生を始めます。

停止

ロータリーコマンドーを押すと、Bluetooth 対応機器の再生を停止します。

ポーズ設定

ロータリーコマンドーを押すごとに、ON / OFF します。


デバイス情報

(→「本システムのデバイス情報を確認する」)

知っている便利

- リモコンの FUNCTION を押して、機能を選ぶこともできます。

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC を押します。(30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。) ただし、次の機能の場合は自動では戻りません。「接続待ち受け」「接続解除設定」
- ひとつ前の画面に戻るには  / DISP / SCRL を押します。

ご注意

- BT Audio が A2DP (音声再生のみ) で接続されている場合、「再生」、「停止」、「ポーズ設定」には、切り換わりません。

本システムのデバイス情報を確認する

1 デバイス情報にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ本システムのデバイス名が表示されます。

2 ロータリーコマンドーを左に操作する

デバイスアドレスが表示されます

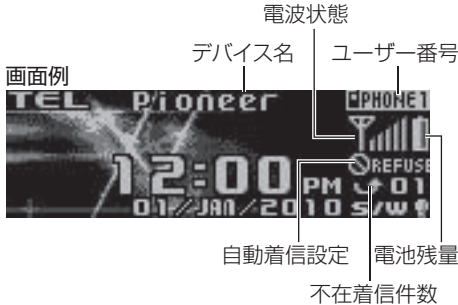
ロータリーコマンドーを右に操作すると、デバイス名表示に戻ります。

3 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

Bluetooth アダプターの 組み合わせについて

本機と Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10」）を組み合わせ、Bluetooth 対応の携帯電話を使用することができます。ここでは、基本的な操作方法を説明しています。詳しくは、組み合わせた Bluetooth アダプターの取扱説明書をご覧ください。



メモ

- 組み合わせる Bluetooth 対応の携帯電話によっては、操作や動作が異なります。携帯電話の取扱説明書も併せてご覧ください。

電話の待ち受けソースにする

TEL

電話の待ち受けソース（TEL）では、本システムに接続した Bluetooth 対応の携帯電話のさまざまな設定を行うことができます。

ご注意

- 本機で、Bluetooth 対応の携帯電話を使用して、ハンズフリー通話をするには、Bluetooth 接続を行う必要があります。（→「携帯電話を接続する」41 ページ）

1 ソースを電話の待ち受けにする

SRC/OFF を押す

音声操作で電話をかける

音声認識機能のある携帯電話を接続している場合、音声認識機能で電話をかけることができます。音声操作について、詳しくは携帯電話の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 音声認識機能のない携帯電話では、「機能がありません」と表示されて、操作できません。
- 音声認識機能のある携帯電話でも、HFP 接続できていない場合は、操作できません。

1 BAND/ESC を長く押す

音声認識画面が表示されます

2 電話をかけたい相手の名前を 発話する

発話した名前の相手に発信します

かかってきた電話に出る

どのソースを聞いているときでも、本機の電源が OFF のときでも、かかってきた電話に出ることができます。

かかってきた電話に出る

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンダーを押す

電話がつながり、通話できます

2 通話中に、ロータリーコマンダーを回す

通話中の相手声の音量（受話音量）を調節する

3 ローターコマンドを下に操作する

電話が切れます

通話中にかかってきた別の電話に出る (割込通話)

📌 ご注意

- 割込通話機能の利用には、携帯電話会社との契約が必要です。
- 割込通話中は、通話の相手を切り換えることはできませんが、通話を個別に切ることができます。

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを押すごとに、通話の相手が切り換わります

2 ローターコマンドを下に操作する

通話中の相手だけでなく、保留にしている相手の電話も切れます

かかってきた電話を切る (着信拒否)

電話に出られないときは、着信を拒否できます。また、通話中にかかってきた別の電話の着信を拒否することもできます。

かかってきた電話を切る

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンドを下に操作する

かかってきた電話の着信を拒否します

✍️ 知っているとお便利

- 手動で着信拒否をした場合、電話番号が不在着信履歴に残ります。(➡「履歴から電話をかける」45 ページ)
- すべての着信を自動で拒否することもできます。この場合、電話番号は不在着信履歴には残りません。(➡「着信拒否を設定する」47 ページ)

通話中にかかってきた別の電話を切る

📌 ご注意

- 通話中にかかってきた電話は、手動で着信拒否をした場合でも、電話番号は不在着信履歴に残りません。

1 電話がかかってきたら、ロータリーコマンドを下に操作する

通話中に、かかってきた電話の着信を拒否します

ファンクションメニューの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、ファンクションメニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 SRC/OFFを押して、ソースをTELにする

2 ローターコマンドを押す

メインメニューが表示されます

3 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」を選び、ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

■ 携帯電話が接続されていないとき

BT 機器接続設定 (⇒「携帯電話を接続する」41 ページ)
 ↓
 接続待ち受け (⇒「携帯電話を接続する」41 ページ)
 ↓
 電話機接続設定 (⇒「登録されている携帯電話を接続する」42 ページ)
 ↓
 電話機登録削除 (⇒「携帯電話の登録を削除する」43 ページ)
 ↓
 電話帳転送 (⇒「携帯電話の電話帳を転送する」43 ページ)
 ↓
 着信拒否設定 (⇒「着信拒否を設定する」47 ページ)
 ↓
 自動着信設定 (⇒「自動着信を設定する」47 ページ)
 ↓
 着信 BEEP 音設定 (⇒「着信音を ON / OFF する」47 ページ)
 ↓
 自動接続設定 (⇒「登録されている携帯電話を接続する」42 ページ)
 ↓
 エコーキャンセル設定 (⇒「通話中のノイズやエコーを軽減する」46 ページ)
 ↓
 デバイス情報 (⇒「本システムのデバイス情報を確認する」47 ページ)
 ↓
 BT 機器接続設定に戻る

■ 携帯電話が接続されているとき

接続解除設定 (⇒「Bluetooth 接続を解除する」41 ページ)
 ↓
 電話機登録設定*1 (⇒「携帯電話を登録する」42 ページ)
 ↓
 電話機登録削除 (⇒「携帯電話の登録を削除する」43 ページ)
 ↓

電話帳転送 (⇒「携帯電話の電話帳を転送する」43 ページ)



電話帳表示切換*2 (⇒「電話帳の表示方法を切り換える」44 ページ)



ユーザーメモリ消去*3 (⇒「データを消去する」46 ページ)



ナンバー入力発信 (⇒「電話番号を入力して電話をかける」46 ページ)



着信拒否設定 (⇒「着信拒否を設定する」47 ページ)



自動着信設定 (⇒「自動着信を設定する」47 ページ)



着信 BEEP 音設定 (⇒「着信音を ON / OFF する」47 ページ)



自動接続設定 (⇒「登録されている携帯電話を接続する」42 ページ)



エコーキャンセル設定 (⇒「通話中のノイズやエコーを軽減する」46 ページ)



デバイス情報 (⇒「本システムのデバイス情報を確認する」47 ページ)



接続解除設定に戻る



知っている则便利

- リモコンの FUNCTION を押して、機能を選ぶこともできます。



メモ

- 電話の待ち受け画面に戻るときは、BAND/ESC を押します。
- 30 秒間何も操作しないと、電話の待ち受け画面に自動的に戻ります。ただし、次の機能の場合は自動では戻りません。
「BT 機器接続設定」「接続待ち受け」「接続解除設定」「電話機接続設定」「電話帳転送」「ユーザーメモリ消去」「ナンバー入力発信」
- ひとつ前の画面に戻るには /DISP/SCRL を押します。

* 1 接続中の電話機が登録されているときは、「電話機登録設定」には切り換わりません。

* 2 接続中の電話機がユーザーとして登録されているときに、「電話帳表示切換」に切り換わります。

* 3 接続中の電話機が登録されているときに、「ユーザーメモリ消去」に切り換わります。

携帯電話を接続する

接続可能な携帯電話を検索して接続する

1 BT 機器接続設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換えかた」39ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

接続可能な携帯電話を検索する

接続可能な携帯電話が見つかったと、デバイス名(機器名称)が表示されます。

接続可能な携帯電話が複数台見つかった場合は、ロータリーコマンドーを上下に操作して、接続する携帯電話を選びます。

3 もう一度、ロータリーコマンドーを押す

携帯電話を Bluetooth 接続する

接続を完了するには、携帯電話で本システムのデバイス名を確認し、パスコードを入力します。接続が完了すると、「接続しました」と表示されます。

4 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります

知っている则便利

- ロータリーコマンドーを左右に操作すると、携帯電話のデバイス名(機器名称)とデバイスアドレスを切り換えることができます。

メモ

- パスコードの初期設定は、「0000」です。パスコードは変更できます。(➡「Bluetooth のパスコードを変更する」61ページ)
- 携帯電話のデバイス名が取得できなかった場合は、「Name not found」と表示されます。
- 接続可能な携帯電話が見つからなかった場合は、「見つかりません」と表示されます。

携帯電話から接続する

ご注意

- 携帯電話によって操作は異なります。詳しくは、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。
- 携帯電話によっては、パスコードの入が必要になる場合があります。
- パスコードの初期設定は、「0000」です。パスコードは変更できます。(➡「Bluetooth のパスコードを変更する」61ページ)

1 接続待ち受けにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換えかた」39ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

携帯電話からの接続待ち受け状態になります

3 携帯電話を操作して、本システムと Bluetooth 接続する

携帯電話が Bluetooth 接続されます

4 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります

Bluetooth 接続を解除する

1 接続解除設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換えかた」39ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

本システムとの Bluetooth 接続が解除されます

3 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります

携帯電話を登録する

1 電話機登録設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「ファンクションメニューの切り換え
かた」39 ページ)

2 ロータリーコマンドーを上下 に操作する

登録する設定を選ぶ

P1(ユーザー 1)、P2(ユーザー 2)、P3(ユーザー 3)、G1 (ゲスト 1)、G2 (ゲスト 2)
の中から選べます。

3 ロータリーコマンドーを押す

携帯電話が選んだ設定に登録されます

ご注意

- すでに登録されている携帯電話は、別の設定に登録できません。

知っていると便利

- ロータリーコマンドーを左右に操作すると、携帯電話のデバイス名(機器名称)とデバイスアドレスを切り換えることができます。

4 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります

ご注意

- ゲストとして登録された携帯電話では、一部操作できない機能があります。

登録されている携帯電話 を接続する

手動で接続する

1 電話機接続設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「ファンクションメニューの切り換え
かた」39 ページ)

2 ロータリーコマンドーを上下 に操作する

接続したい携帯電話の設定を選ぶ

P1(ユーザー 1)、P2(ユーザー 2)、P3(ユーザー 3)、G1 (ゲスト 1)、G2 (ゲスト 2)
の中から選べます。

知っていると便利

- ロータリーコマンドーを左右に操作すると、携帯電話のデバイス名(機器名称)とデバイスアドレスを切り換えることができます。

3 ロータリーコマンドーを押す

選んだ携帯電話が Bluetooth 接続
されます

4 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります

自動で接続する

1 自動接続設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「ファンクションメニューの切り換え
かた」39 ページ)

2 ローターリーコマンダーを押す

自動接続設定が ON になります

本システムに登録されている携帯電話と自動的に Bluetooth 接続を開始する待機状態になります。

もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります



メモ

- 登録されている携帯電話でも、機種によっては自動接続できない場合があります。この場合は、手動で接続してください。

携帯電話の登録を削除する

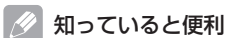
1 電話機登録削除にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ
(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」39 ページ)

2 ローターリーコマンダーを上下に操作する

登録を削除したい携帯電話の設定を選ぶ

P1(ユーザー 1)、P2(ユーザー 2)、P3(ユーザー 3)、G1(ゲスト 1)、G2(ゲスト 2)の中から選べます。



知っている则便利

- ロータリーコマンダーを左右に操作すると、携帯電話のデバイス名(機器名称)とデバイスアドレスを切り換えることができます。

3 ローターリーコマンダーを右に操作する

確認画面が表示されます

4 ローターリーコマンダーを押す

選んだ携帯電話の登録が削除されます

5 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります

携帯電話の電話帳を転送する

1 電話帳転送にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ
(⇒「ファンクションメニューの切り換えかた」39 ページ)

2 ローターリーコマンダーを押す

電話帳転送の待機状態になります

3 携帯電話を操作して、本システムに電話帳データを転送する

電話帳が転送されます

4 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります



メモ

- 電話帳データの転送は、携帯電話を操作して行います。(携帯電話の操作方法については、携帯電話の取扱説明書をご覧ください。)

電話帳の表示方法を切り換える

1 電話帳表示切換にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換えかた」39 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

電話帳データの表示方法が切り換わります

ロータリーコマンドーを押すごとに、電話帳データの表示方法が切り換わります。

3 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります

メモ

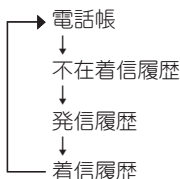
- 電話帳データを転送した携帯電話によっては、表示方法を切り換えられない場合があります。

電話帳を使う

電話帳から電話をかける

1 🔍 を押す

ボタンを押すごとに次の順序で切り換わります



2 ロータリーコマンドーを回す

電話をかけたい相手を選ぶ

次のデータを選ぶとき：右に回す

前のデータを選ぶとき：左に回す

3 ロータリーコマンドーを右に操作する

選んだデータの詳細リストが表示されます

4 電話番号が複数登録されている場合、ロータリーコマンドーを回す

かけたい電話番号を選ぶ

次の電話番号を選ぶとき：右に回す


前の電話番号を選ぶとき：左に回す

5 ロータリーコマンドーを押す

選んだ電話番号に電話をかける

通話を終了するときは、ロータリーコマンドーを下に操作します。

メモ

- リスト表示中に  /DISP/SCRL を長く押すと、名前や電話番号をスクロール表示できます。もう一度押すと、通常のリスト表示に戻ります。
- ゲスト登録された携帯電話では、電話帳には切り換わりません。
- リスト表示は、30 秒間何も操作しないと自動的に電話の待ち受け画面に戻ります。

電話帳編集画面を表示する

1 電話帳から、編集したいデータの詳細リストを表示する

2 ロータリーコマンドーを長く押す

電話帳編集画面が表示されます

3 ローターリーコマンドを回す

編集する項目を選ぶ

電話番号編集、電話帳削除の中から選べます。

電話帳データの電話番号を編集する

1 電話番号編集画面にする

2 電話番号を編集する

■ 入力する数字を選ぶとき
次の数字を選ぶ：上に操作する
前の数字を選ぶ：下に操作する

■ 入力する位置を選ぶとき
右に移動する：右に操作する
左に移動する：左に操作する

3 ローターリーコマンドを押す

編集した電話番号が登録され、詳細リストに戻ります

電話帳データを削除する

1 電話帳削除画面にする

2 ローターリーコマンドを右に操作する

確認画面が表示されます

電話帳削除画面に戻るときは、ロータリーコマンドを左に操作します。

3 ローターリーコマンドを押す

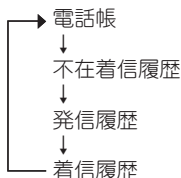
選んだ電話帳データが削除され、3行リスト表示に戻ります

履歴から電話をかける

不在着信履歴、発信履歴、着信履歴に記録されている電話番号へ電話をかけることができます。

1 Qを押す

ボタンを押すごとに次の順序で切り換わります



2 ローターリーコマンドを回す

電話をかけたい履歴データを選ぶ

次のデータを選ぶとき：右に回す
前のデータを選ぶとき：左に回す

3 ローターリーコマンドを右に操作する

選んだデータの詳細リストが表示されます

3行リスト表示に戻るときは、ロータリーコマンドを左に操作します。

4 ローターリーコマンドを押す

選んだ履歴データに電話をかける

通話を終了するときは、ロータリーコマンドを下に操作します。

メモ

- 詳細リスト表示中に **DISP/SCRL** を長く押し続けると、名前と電話番号をスクロール表示できます。もう一度押し続けると、通常のリスト表示に戻ります。
- 電話帳データに登録されている電話番号は、登録名が表示されます。
- ゲスト登録された携帯電話では、電話帳には切り換わりません。
- リスト表示は、30秒間何も操作しないと自動的に電話の待ち受け画面に戻ります。

データを消去する

1 ユーザーメモリー消去にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換え
かた」39 ページ)

2 ロータリーコマンドーを上下 に操作する

消去するデータを選ぶ

電話帳、不在着信履歴、発信履歴、着信履歴、プリセットダイヤル、すべて削除の中から選べます。

3 ロータリーコマンドーを右に 操作する

確認画面が表示されます

4 ロータリーコマンドーを押す

選んだデータが消去されます

5 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります

メモ

- 「すべて削除」を選ぶと、電話帳、不在着信履歴、発信履歴、着信履歴、プリセットダイヤルの全データを消去します。
- ゲスト登録された携帯電話では、電話帳には切り換わりません。

電話番号を入力して電話 をかける

1 ナンバー入力発信にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換え
かた」39 ページ)

2 電話番号を入力する

■ 入力する数字を選ぶとき
次の数字を選ぶ：上に操作する
前の数字を選ぶ：下に操作する

■ 入力する位置を選ぶとき
右に移動する：右に操作する
左に移動する：左に操作する

3 ロータリーコマンドーを押す

入力した電話番号が決定され、確認画面が表示されます

入力画面表示に戻るときは、ロータリーコマンドーを右に操作します

4 もう一度、ロータリーコマ ンドーを押す

入力した電話番号に電話をかける

通話を終了するとき、ロータリーコマ
ンドーを下に操作します。

通話中のノイズやエコー を軽減する

1 エコーキャンセル設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(➡「ファンクションメニューの切り換え
かた」39 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

エコーキャンセル設定が ON になり
ます

もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります

着信音を ON / OFF する

1 着信 BEEP 音設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換えかた」39 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

着信 BEEP 音設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります

着信拒否を設定する

1 着信拒否設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換えかた」39 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

着信拒否設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります

自動着信を設定する

1 自動着信設定にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換えかた」39 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

自動着信設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります

本システムのデバイス情報を確認する

1 デバイス情報にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「ファンクションメニューの切り換えかた」39 ページ)

本システムのデバイス名が表示されます。

2 ロータリーコマンドーを左に操作する

デバイスアドレスが表示されます
ロータリーコマンドーを右に操作すると、
デバイス名表示に戻ります。

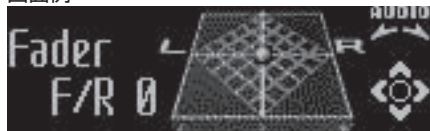
3 BAND/ESC を押す

電話の待ち受け画面に戻ります

オーディオ調整メニューの切り換えかた

「音量バランス調節」「ラウドネス」などの音質調整機能を使うときは、オーディオ調整メニューで機能を選んで操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 ロータリーコマンドを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンドを回して「AUDIO」を選び、ロータリーコマンドを押す

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

- フェーダー／バランス (⇒「前後左右の音量バランスを調節する」49 ページ)
- ↓
- イコライザー選択 (⇒「イコライザーカーブを選ぶ」49 ページ)
- ↓
- イコライザー 5 バンド調節 (⇒「イコライザーカーブを調節する」50 ページ)
- ↓
- ラウドネス (⇒「小さな音量でも聞きやすくする」50 ページ)
- ↓
- サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え (⇒「サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え」51 ページ)
- ↓
- サブウーファー調節 (⇒「サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節」51 ページ)
- ↓
- バスブースター (⇒「低い音を強調する」52 ページ)
- ↓
- HPF (⇒「低い音を出さないようにする」52 ページ)
- ↓
- SLA (ソースレベルアジャスター) (⇒「各ソースの音量をそろえる」53 ページ)

知っている则便利

- リモコンの AUDIO を押して、機能を選ぶこともできます。

メモ

- ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC を押します。(イコライザー 5 バンド調節メニューを選んでいるとき以外は、30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。)
- ひとつ前の画面に戻するには、DISP/SCRL を押します。
- サブウーファー調節メニューは、サブウーファー設定メニューの設定が ON のときだけ選べます。
- ラジオの FM を聞いているときは、SLA には切り換わりません。

前後左右の音量バランスを調節する

フェーダー／バランス

前後左右のスピーカーからの音量バランスを調節できます。より自然に聞こえるバランスに設定してください。

📌 ご注意

- リアスピーカー出力の設定（➡「リアスピーカー出力を設定する」58ページ）を「Rear SP:S/W」、RCA出力設定（➡「RCA出力から出力される信号を選ぶ」59ページ）を「Subwoofer」にしたときは、Fader（フェーダー）は調節できません。

1 Fader/Balance にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ（➡「オーディオ調整メニューの切り換えかた」48ページ）

2 音量バランスを調節する

ロータリーコマンドーを操作する

■ 前後を調節するとき

前を強める：上に操作する

後ろを強める：下に操作する

前後のバランスは、Front 15～Rear 15の範囲で調節できます。

■ 左右を調節するとき

右を強める：右に操作する

左を強める：左に操作する

左右のバランスは、Left 15～Right 15の範囲で調節できます。

3 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを選ぶだけで、お好みの音質にできます。

📌 ご注意

- 交通情報を受信しているときや電話の待ち受けソースを選んでいるときは、イコライザーカーブを選ばません。

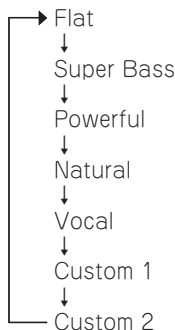
1 イコライザー選択にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ（➡「オーディオ調整メニューの切り換えかた」48ページ）

2 ロータリーコマンドーを左右に操作する

イコライザーカーブを選ぶ

操作するごとに、次の順序でイコライザーカーブが切り換わります



3 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

📝 メモ

- 「Custom1」と「Custom2」は、お好みに合わせて調節できます。
- 「Flat」は、イコライザーによる音の補正がされていません。他のイコライザーカーブと切り換えることで、そのイコライザーカーブの効果を確認することもできます。

イコライザーカーブを調節する

イコライザー 5 バンド調節

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数ごとにレベルを調節できます。



Custom1 とは

- 調節したイコライザーカーブがソースごとに登録されます。(内蔵 CD とマルチ CD、AUX1 と AUX2、External1 と External2 は、同じ設定になります。)

「Custom2」以外のカーブを選んでいるときに調節すると、自動的に「Custom1」に登録されます。



Custom2 とは

- すべてのソースに共通のイコライザーカーブで、調節ができます。「Custom2」を選んでいるときに調節すると、調節内容が更新されます。

1 調節したいイコライザーカーブを選ぶ

調節するイコライザーカーブを選ぶ
「イコライザーカーブを選ぶ」(⇒49 ページ)

2 イコライザー 5 バンド調節にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「オーディオ調整メニューの切り換えかた」48 ページ)

3 ロータリーコマンドーを左右に操作する

周波数を選ぶ

高い周波数を選ぶとき：右に操作する

低い周波数を選ぶとき：左に操作する

100 Hz、315 Hz、1.25 kHz、3.15 kHz、8 kHz の中から選べます。

4 ロータリーコマンドーを上下に操作する

レベルを調節する

レベルを大きくするとき：上に操作する

レベルを小さくするとき：下に操作する

レベルは -6 ~ +6 の範囲で調節できます。



メモ

- 調節するイコライザーカーブによっては、調節範囲が異なります。

5 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

小さな音量でも聞きやすくする

ラウドネス

小さな音量で音楽を聞いていると、低音・高音が不足しているように感じることがあります。ラウドネスは、この不足感を補って、音を聞きやすくします。

1 LOUD にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「オーディオ調整メニューの切り換えかた」48 ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ラウドネスが ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 ロータリーコマンドーを左右に操作する

ラウドネスの効果を選ぶ

Low (弱)、Mid (中)、High (強) の中から選べます。

4 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

サブウーファーを使う

本機では、リアスピーカー端子、または RCA 出力端子に接続したサブウーファーを調節できます。サブウーファーの調節は、

- ①サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え
- ②サブウーファー調節の 2 つのステップで行います。

「サブウーファーの設定について」(→ 14 ページ)を参照して、お手持ちのシステムに合ったサブウーファーの設定を行ってください。

ご注意

- 「RCA 出力設定」(→ 「RCA 出力から出力される信号を選ぶ」59 ページ)を「Rear」にしたときは、サブウーファーの調節はできません。
- 「Sub.W1」(→ 「サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え」)を「OFF」にした場合は、「Sub.W2」(→ 「サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節」)は操作できません。

サブウーファーの ON / OFF と位相切り換え

サブウーファー

本機にサブウーファーを接続して使用する場合は、サブウーファーの設定を ON にする必要があります。

ON にしたあと、サブウーファーから出力される音が自然に聞こえるように、位相を切り換えてください。

位相切り換えとは

- サブウーファーから出力される音の中には、フロント／リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域の成分が含まれています。車内条件により、これらの音の位相が反転（干渉）し、打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐために、車内条件に合わせて位相を正相または逆相に切り換えてください。
正相：サブウーファーの音が、フロント／リアスピーカーと同時に出力される
逆相：サブウーファーの音が、フロント／リアスピーカーとタイミングをずらして出力される

1 Sub W. 1 にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→ 「オーディオ調整メニューの切り換えかた」48 ページ)

2 OFF になっている場合は、ロータリーコマンドーを押す

サブウーファーが ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 ロータリーコマンドーを左右に操作する

サブウーファーの位相を選ぶ
正相 (Normal) を選ぶとき：右に操作する
逆相 (Reverse) を選ぶとき：左に操作する

4 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

サブウーファーのカットオフ周波数選択とレベル調節

サブウーファー調整

サブウーファーから出力される低音域 (カットオフ周波数) と出力レベルを設定します。他のスピーカーから出力される音とのつながりが自然になるように設定してください。

カットオフ周波数とは

- 選んだ周波数よりも上の周波数 (もしくは下の周波数) の音域をカットします。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。サブウーファーのカットオフ周波数の設定では、カットオフ周波数よりも上の音域がカットされ、低音域だけが出力されます。また、カットオフ周波数以下の音域の出力レベルを上げることで、低音をさらに強調させることもできます。

1 Sub W.2 にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「オーディオ調整メニューの切り換えかた」48ページ)

2 ロータリーコマンドーを左右に操作する

カットオフ周波数を選ぶ

高い周波数を選ぶとき：右に操作する

低い周波数を選ぶとき：左に操作する

カットオフ周波数は、50 Hz、63 Hz、80 Hz、100 Hz、125 Hzの中から選べます。

3 ロータリーコマンドーを上下に操作する

レベルを調節する

レベルを大きくするとき：上に操作する

レベルを小さくするとき：下に操作する

レベルは、-24 ~ +6 の範囲で調節できます。

4 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

低い音を強調する

バスブースター

低音域を強調させることができます。バスブースターのレベルを上げると、迫力のある低音を再生できます。

1 Bass にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「オーディオ調整メニューの切り換えかた」48ページ)

2 ロータリーコマンドーを上下に操作する

レベルを調節する

レベルを大きくするとき：上に操作する

レベルを小さくするとき：下に操作する

レベルは、0 ~ 6 の範囲で調節できます。

3 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります



メモ

- サブウーファー設定の ON / OFF によって、プーストされる音域は、次の周波数以下になります。
サブウーファー設定が ON の場合：
サブウーファーのカットオフ周波数に連動
サブウーファー設定が OFF の場合：
100 Hz 固定

低い音を出力しないようにする

ハイパスフィルター

選んだ周波数よりも高い音だけを、フロントスピーカー、リアスピーカーから出力します。フロントスピーカーとリアスピーカーからは高音だけを出力させ、サブウーファーからは低音だけを出力させることで、各スピーカーとサブウーファーの音のつながりを自然にすることができます。



ハイパスフィルター (HPF) とは

- ハイパスフィルター (HPF) は、設定した周波数 (カットオフ周波数) から下の音域 (低音域) をカットして、高音域を通すフィルターです。



カットオフ周波数とは

- 選んだ周波数よりも下の周波数 (もしくは上の周波数) の音域をカットします。このときに選択する周波数を、カットオフ周波数と呼びます。ハイパスフィルターのカットオフ周波数の設定では、カットオフ周波数よりも下の音域がカットされ、高音域だけが出力されます。

1 HPFにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「オーディオ調整メニューの切り換え
かた」48ページ)

2 ロータリーコマンドーを押す

ハイパスフィルターが ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

3 ロータリーコマンドーを左右 に操作する

カットオフ周波数を選ぶ

高い周波数を選ぶとき：右に操作する

低い周波数を選ぶとき：左に操作する

カットオフ周波数は、50 Hz、63 Hz、
80 Hz、100 Hz、125 Hzの中から選べます。

4 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

各ソースの音量をそろ える

SLA

ソースを切り換えたときに、ソースごとの音量
が違ふことがあります。SLA を使うと、FM の
音量を基準にして各ソースの音量をそろえるこ
とができます。

SLA とは

- SLA は、「Source Level Adjuster (ソース
レベルアジャスター)」の略です。

ご注意

- ラジオの FM を聞いているときは、SLA には
切り換わりません。

1 SLA にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「オーディオ調整メニューの切り換え
かた」48ページ)

2 ロータリーコマンドーを上下 に操作する

レベルを調節する

レベルを大きくするとき：上に操作する

レベルを小さくするとき：下に操作する

レベルは -4 ~ +4 の範囲で調節できます。

3 BAND/ESC を押す

ふだんの再生画面に戻ります

メモ

- AM、CD、USB、iPod、External (エクスター
ナルユニット)、AUX (外部機器) の音量差
を調節することができます。なお、AUX1
と AUX2、External1 と External2、および
AM と交通情報は同じ設定になります。

初期設定メニューの切り換えかた

「時計調整」「外部機器設定」などの機能を使うときは、初期設定メニューで操作します。初期設定メニューは、電源を OFF にした状態で操作します。

画面例



使いたい機能を選ぶ

1 SRC/OFFを長く押し、本機の電源をOFFにする

2 ロータリーコマンドを長く押し、初期設定メニューに切り換える

初期設定メニューに切り換わると、「カレンダー設定」と表示されます。

3 ロータリーコマンドを回す

ロータリーコマンドを回すごとに、次の順序で機能が切り換わります

- カレンダー設定(⇒「日付を合わせる」)
- ↓
- 時計調整 (⇒「時計を合わせる」55 ページ)
- ↓
- 経過時間アラート設定 (⇒「本機の使用時間を知らせる」55 ページ)
- ↓
- USB plug&play 設定 (⇒「USB/iPod ソースの切り換え方法を設定する」56 ページ)
- ↓
- Music ブラウズ設定 (⇒「曲のさがしかたを設定する」56 ページ)
- ↓
- 外部機器設定 1 (⇒「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」57 ページ)
- ↓

- 外部機器設定 2 (⇒「外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする」57 ページ)
- ↓
- ディマー設定 (⇒「夜間のディスプレイの明るさを切り換える」57 ページ)
- ↓
- 輝度調整 (⇒「ディスプレイの明るさを調節する」58 ページ)
- ↓
- S/W コントロール (⇒「リアスピーカー出力を設定する」58 ページ)
- ↓
- RCA 出力設定 (⇒「RCA 出力から出力される信号を選ぶ」59 ページ)
- ↓
- ミュート設定 (⇒「ミュート/アッテネートを切り換える」59 ページ)
- ↓
- デモ設定 (⇒「フィーチャーデモを ON / OFF する」60 ページ)
- ↓
- 画面反転設定 (⇒「リバースモードを ON / OFF する」60 ページ)
- ↓
- 連続スクロール設定 (⇒「スクロールの設定を切り換える」61 ページ)
- ↓
- BT AUDIO 設定 (⇒「Bluetooth Audio ソースを ON にする」61 ページ)
- ↓
- パスワード編集 (⇒「Bluetooth のパスワードを変更する」61 ページ)
- ↓
- BT バージョン情報 (⇒「Bluetooth のバージョンを表示する」62 ページ)



メモ

- 初期設定メニューを解除するときは、BAND/ESC を押します。(初期設定メニューを解除すると、電源が OFF になります。)
- ひとつ前の画面に戻るには /DISP/SCRL を押します。

日付を合わせる

カレンダー設定

本機のディスプレイに表示する日付を合わせます。

1 カレンダー設定にする

(⇒「初期設定メニューの切り換えかた」)

2 日付の設定をする

■ 年、月、日を選ぶとき

ロータリーコマンドナーを左右に操作する

■ 日付を合わせるとき

ロータリーコマンドナーを上下に操作する

3 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

■ 時刻を時報に合わせるとき
ロータリーコマンドナーを押す
分が“00”になります。
例) 10:00 ~ 10:29 → 10:00
10:30 ~ 10:59 → 11:00

3 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

時計を合わせる

時計調整

本機のディスプレイに表示する時計の調整ができます。

1 時計調整にする

(→「初期設定メニューの切り換えかた」54 ページ)

2 時計を調整する

■ 時または分を選ぶとき

ロータリーコマンドナーを左右に操作する

■ 時刻を合わせるとき

ロータリーコマンドナーを上下に操作する

分を調節すると、0 秒からカウントが始まります。

本機の使用時間を知らせる

経過時間アラート

車のエンジン、または ACC が ON になってからの時間を計測し、設定した時間ごとに使用時間を表示と音で知らせます。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」54 ページ)

2 ロータリーコマンドナーを回す

経過時間アラート設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドナーを押す

ロータリーコマンドナーを押すごとに、次の順序で設定画が切り換わります
OFF — 15 分 — 30 分

USB/iPod ソースの切り換え方法を設定する

USBplug&play

本機能の設定により、USB/iPod ソースの切り換えかたが変わります。

- ON : USB/iPod を接続すると、USB/iPod ソースに切り換わります。取り外すと、電源 OFF になります。
- OFF : USB/iPod を接続しても、USB/iPod ソースに自動では切り換わりません。USB/iPod ソースには手動で切り換えてください。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」54 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

USBplug&play 設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

USB/iPod 自動切り換え設定が ON になります。
もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

曲のさがしかたを設定する

Music ブラウズ

USB 機器を使用しているときに、リストから曲をさがすことができます (→「聞きたい曲をさがす」30 ページ)。この機能では、曲をさがす元になるデータベース・リストを設定します。

- ON : アーティスト/アルバム/曲/ジャンルのデータベース・リストを作成します。
- OFF : ファイル/フォルダーのリストを使用します。

📌 ご注意

- アーティスト/アルバム/曲/ジャンルのデータベース・リストの作成には、時間が掛かることがあります。
- Music ブラウズ設定を ON にしているときは、次の機能が使用できません。
 - フォルダー選択
 - Root フォルダー戻し
 - フォルダーリピート
- Music ブラウズ機能は、ID3tag Ver.2 に対応しています。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」54 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

Music ブラウズ設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

Music ブラウズ設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

外部機器 (AUX) の音声を聞けるようにする

AUX

本機にポータブル音楽再生機器や VTR、ナビゲーションユニットなどの外部機器を接続して、その音声を聞くことができます。

外部機器の接続には、次の 3 通りがあります。

- ①市販のミニプラグを使用する場合 (AUX1)
- ②別売の RCA / IP-BUS インターコネクターを使用する場合 (AUX2)
- ③IP-BUS を使用する場合 (AUX2) (パイオニア製ナビゲーションユニットのように、IP-BUS 出力を持つパイオニア製品を接続する場合)

ご注意

- AUX2 は、②と③のどちらか一方の接続方法で使用できます。(両方の接続方法を同時に使用することはできません。)

① 市販のミニプラグを使用する場合

本体前面の AUX 入力端子 (3.5 mm) に接続します。(➡「各部のなまえ」9 ページ)

この場合、接続した外部機器は、AUX1 ソースとして認識されます。

② 別売の RCA / IP-BUS インターコネクターを使用する場合

接続する外部機器に RCA 出力がある場合、別売の RCA / IP-BUS インターコネクター「CD-RB10」または「CD-RB20」を使用して、本機の IP-BUS 入力端子に接続します。接続した外部機器は、AUX2 ソースとして認識されます。詳しくは、RCA / IP-BUS インターコネクターの説明書をご覧ください。

③ IP-BUS を使用する場合 (パイオニア製ナビゲーションユニットを接続する場合)

別売の IP-BUS ケーブル (例:「CD-IP600」) を使用して、本機の IP-BUS 入力に接続します。接続したナビゲーションユニットは AUX2 ソースとして認識され、音声のみが出力されます。

1 初期設定メニューを表示する

(➡「初期設定メニューの切り換えかた」54 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

外部機器設定 1 または外部機器設定 2 を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

外部機器設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

メモ

- AUX1 は、初期設定が ON になっています。AUX1 を使用しない場合は、OFF にします。

初期設定

夜間のディスプレイの明るさを切り換える

ディマー

車のライトを ON にすると、ディスプレイが暗くなるように設定できます。

夜間にディスプレイがまぶしく感じられる場合は、ディマー設定を ON にすると便利です。

ご注意

- 輝度調整 (➡「ディスプレイの明るさを調節する」58 ページ) の設定を「0」にしているときは、ディマー設定を ON にしても、効果はありません。

1 初期設定メニューを表示する

(➡「初期設定メニューの切り換えかた」54 ページ)

2 ロータリーコマンドーを回す

ディマー設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押す

ディマー設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

ディスプレイの明るさを調節する

輝度調整 (ブライト)

ディスプレイの明るさを調節できます。

1 初期設定メニューを表示する

(→ 「初期設定メニューの切り換えかた」 54 ページ)

2 ロータリーコマンドーを回す

輝度調整を選ぶ

3 ロータリーコマンドーを左右に操作する

ディスプレイの明るさを調節する
明るさは 0 ~ 15 の範囲で調節できます。

4 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

メモ

- ディマー設定 (→ 「夜間のディスプレイの明るさを切り換える」) が ON のときは、輝度調整の範囲は、0 ~ 10 になります。

リアスピーカー出力を設定する

リアスピーカー出力の設定

リアスピーカー出力に接続するスピーカーの種類に合わせて、リアスピーカーの出力方法を選べます。

- ①フルレンジスピーカーを接続するとき：
「Rear SP:F.Range」に設定します
- ②サブウーファーを接続するとき：
「Rear SP:S/W」に設定します

ご注意

- リアスピーカー出力の設定を「Rear SP:S/W」に切り換えると、リアスピーカー端子にサブウーファーを直接接続できます。

1 初期設定メニューを表示する

(→ 「初期設定メニューの切り換えかた」 54 ページ)

2 ロータリーコマンドーを回す

S/W コントロールを選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押す

出力設定が、S/W (サブウーファー) に切り換わります
もう一度押すと、F.Range (フルレンジ) に切り換わります。

4 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

RCA 出力から出力される信号を選ぶ

RCA 出力設定

本機の RCA 出力端子に外部アンプを接続し、フルレンジスピーカーまたはサブウーファーを使用できます。接続するスピーカーに合わせて、RCA 外部出力端子から出力される信号を選びます。

- ①サブウーファーを接続するとき：
「Subwoofer」に設定します
- ②フルレンジスピーカーを接続するとき：
「Rear」に設定します

ご注意

- リアスピーカー出力の設定 (→「リアスピーカー出力を設定する」) でリアスピーカー出力を「Rear SP:S/W」に設定したときは、RCA 出力の設定はできません。

1 リアスピーカー出力を「F. Range」に設定する

(→「リアスピーカー出力を設定する」)

2 ロータリーコマンドーを回す

RCA 出力設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押す

RCA 出力設定が、Rear (リアスピーカー) に切り換わります

もう一度押すと、Subwoofer (サブウーファー) に切り換わります。

4 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

ミュート／アッテネート を切り換える

ミュート

ミュート機能のある製品からミュート信号を受け取ったときに、本機の音声をミュートにするかアッテネートにするかを選べます。

ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

- TEL mute：音量「0」
 - TEL ATT：元の音量の約 1/10
- ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的に元の音量に戻ります。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」54 ページ)

2 ロータリーコマンドーを回す

ミュート設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドーを押す

ミュート設定が、TEL ATT (アッテネーター) に切り換わります

もう一度押すと、TEL mute (ミュート) に切り換わります。

4 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

フィーチャーデモを ON / OFF する

デモンストレーション



フィーチャーデモとは

- フィーチャーデモは、本機の電源が OFF のときに、各ソースや本機の機能（ファンクションやエンタテインメントなど）の画面を表示して紹介する機能です。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」54 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

デモ設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

デモ設定が OFF になります
もう一度押すと、ON になります。

4 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります



知っていると便利

- フィーチャーデモは、本機の電源が OFF のときに、/DISP/SCRL を押すことでも ON / OFF できます。

リバースモードを ON / OFF する

リバースモード



リバースモード（画面反転設定）とは

- リバースモードは、本機の電源が ON のときに、30 秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10 秒間隔で行われます。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」54 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

画面反転設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

画面反転設定が OFF になります
もう一度押すと、ON になります。

4 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります



知っていると便利

- リバースモードは、本機の電源が OFF のときに、BAND/ESC を押すことでも ON / OFF できます。

スクロールの設定を切り換える

連続スクロール

連続スクロール設定を ON にすると、CD のタイトルなどを連続してスクロールできるようになります。スクロールを一度だけにしたいときは、この機能を OFF にします。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」54 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

連続スクロール設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

連続スクロール設定が ON になります
もう一度押すと、OFF になります。

4 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

Bluetooth Audio ソースを ON にする

BT AUDIO

Bluetooth 無線技術を利用して、Bluetooth 対応機器を接続できます。Bluetooth 対応機器を接続している場合、BT Audio ソースの設定を ON にします。

ご注意

- この機能は、別売の Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10」）を接続しているときだけ操作できます。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」54 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

BT AUDIO 設定を選ぶ

3 ロータリーコマンドを押す

BT AUDIO 設定が OFF になります
もう一度押すと、ON になります。

4 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

Bluetooth のパスコードを変更する

パスコード編集

Bluetooth 接続時に使用する暗証番号（パスコード）を変更できます。初期設定は、「0000」になっています。

ご注意

- この機能は、別売の Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10」）を接続しているときだけ操作できます。
- 空白は入力できますが、無効な文字です。空白を入力した場合、以下の制限があります。
 - －途中に空白を入力した場合、それ以降の文字が無効となってパスコードが確定されます。
 - －先頭に空白を入力した場合、パスコードは確定されません。もう一度、パスコードを編集してください。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」54 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

パスコード編集を選ぶ

3 パスコードを変更する

- 入力する数字を選ぶとき
ロータリーコマンドを上下に操作する
- 入力する位置を選ぶとき
ロータリーコマンドを左右に操作する

4 ロータリーコマンドを押す

パスコードの編集を終了し、確認画面が表示されます

5 もう一度、ロータリーコマンドを押す

新しいパスコードに変更されます

6 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

Bluetooth のバージョンを表示する

BT バージョン情報

本機の Bluetooth のバージョン情報を表示させることができます。

ご注意

- この機能は、別売の Bluetooth アダプター（例：「CD-BTB10」）を接続しているときだけ操作できます。

1 初期設定メニューを表示する

(→「初期設定メニューの切り換えかた」54 ページ)

2 ロータリーコマンドを回す

BT バージョン情報を選ぶ

3 ロータリーコマンドを左右に操作する

Bluetooth のバージョン情報の表示を切り換えます

Bluetooth デバイスマジュールのバージョンを表示するとき：左に操作する
システムのマイコンのバージョンを表示するとき：右に操作する

4 BAND/ESC を押す

初期設定メニューが解除され、電源が OFF になります

瞬時に音量を消す

ミュート

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を消せます。

1 リモコンの MUTE を押す

瞬時に音量が消えます
もう一度 MUTE を押すと、解除されます。

カレンダーを表示する

カレンダー表示

以下の設定のとき、本機のディスプレイにカレンダーを表示できます。

- 本機の電源が OFF の場合に、時計表示にしたとき
(→「時計を表示する」)
- エンタテインメント表示で、カレンダーを選んだとき
(→「エンタテインメントを表示する」64ページ)
- 電話の待ち受けソース (TEL) にしたとき
(→「電話の待ち受けソースにする」38ページ)

メモ

- 日付を合わせるには、(→「日付を合わせる」54ページ)

経過時間 / 時計を表示する

本機のディスプレイに経過時間や時計を表示できます。
時計や経過時間は、本機の電源が ON のとき、または電源が OFF でフィーチャーデモを OFF にしているときに表示されます。

1 TI/CLOCK を長く押す

時計—経過時間—ソース名

メモ

- 時計を合わせるには、(→「時計を合わせる」55ページ)

ご注意

- 3 行のタイトル表示をしているときは、時計表示の切り換えはできません。

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

高速道路などで放送されている交通情報ラジオを、瞬時に受信できます。この機能は、電源 OFF のときでも、どのソースからでも操作できます。

1 TI/CLOCK を押す

交通情報を受信する

もう一度 TI/CLOCK を押すと、交通情報を受信する前の状態に戻ります。

2 ロータリーコマンドを左右に操作する

交通情報の周波数を選ぶ

- 1 629 kHz を選ぶとき：右に操作する
- 1 620 kHz を選ぶとき：左に操作する

知っている则便利

- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定できます。

エンタテインメントを表示する

エンタテインメント表示

音楽などを聞いているときに、ディスプレイの表示をさまざまなエンタテインメント表示から選べます。

1 ロータリーコマンドーを押す

メインメニューが表示されます

2 エンタテインメントメニューにする

ロータリーコマンドーを回して「ENTERTAINMENT」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 ロータリーコマンドーを回す

ロータリーコマンドーを回すごとに、次の順序でエンタテインメント表示が切り換わります

BGV
↓
GENRE
↓
BGP1
↓
BGP2
↓
BGP3
↓
BGP4
↓
シンプル 1
↓
カレンダー

4 ロータリーコマンドーを押す

選んだエンタテインメント表示が設定され、エンタテインメントメニューが解除されます



BGV とは

●BGV は、「Background Visual (バックグラウンドビジュアル)」の略です。



GENRE とは

●GENRE は、iTunes でエンコードしたファイルを再生している時に、再生中の曲のジャンルに応じて、背景の画像を切り換える機能です。対応しているジャンルは次のとおりです。

- ・ロック
- ・ポップ
- ・ジャズ
- ・ダンス
- ・ソウル
- ・ヒップホップ

ただし、iTunes でエンコードした WAV ファイルを再生している場合は、GENRE は正しく動作しません。

●オーディオファイルをエンコードした iTunes のバージョンによっては、GENRE が正しく動作しないことがあります。



BGP とは

●BGP は、「Background Picture (バックグラウンドピクチャー)」の略です。



メモ

●ふだんの再生画面に戻るときは、BAND/ESC を押します。(30 秒間何も操作しないと自動的にふだんの再生画面に戻ります。)

エクスターナルユニットを使う

📌 エクスターナルとは

- 本機には、エクスターナルという特殊なソースがあります。このソースには、本機がソースとして対応していない製品（将来発売されるバイオニア製品など）を接続できます。ただしエクスターナルでは、操作できる機能が限られる場合があります。本機には、2台のエクスターナル製品で接続できます。この場合、エクスターナル1とエクスターナル2が自動で設定されます。

📌 ご注意

- ここでは、エクスターナルユニットの基本的な操作方法だけ説明しています。機能は、接続するエクスターナルユニットによって異なります。機能について詳しくは、エクスターナルユニットの取扱説明書をご覧ください。

ソースとしてエクスターナルユニットを選ぶ

SRC/OFFを押してEXTを選ぶ

ふだんの操作

BAND/ESC を押す

BAND/ESC を長く押す

ロータリーコマンダーを左右に操作する

ロータリーコマンダーを左右に長く操作する

ロータリーコマンダーを上下に操作する

1～6 キーに割り当てられた機能を使う

1 🔍を押す

2 ロータリーコマンダーを回してKey1～Key6を選ぶ

3 ロータリーコマンダーを押す

ファンクションメニューの切り換えかた

1 ロータリーコマンダーを押す

メインメニューが表示されます

2 ファンクションメニューにする

ロータリーコマンダーを回してFUNCTIONを選び、ロータリーコマンダーを押す

3 ロータリーコマンダーを回す

次の順序で機能が切り換わります

ファンクション 1
↓
ファンクション 2
↓
ファンクション 3
↓
ファンクション 4
↓
オート/マニュアル

 メモ

- ふだんの再生画面に戻るには、BAND/ESCを押します。

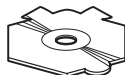
CD の正しい使いかた

●使用できる CD について

- 次のマークが付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。



- 本機は音楽 CD 規格に準拠して設計されています。コピーコントロール CD などの CD 規格外ディスクの動作保証および性能保証は致しかねます。
- ひび、キズ、そりのある CD は使用しないでください。
- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



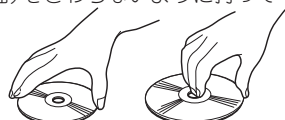
- 音楽用 CD レコーダーまたはパソコンで記録した CD-R / CD-RW ディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できない場合があります。（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。）
- 直射日光や高温など、車内での保管状況により、CD-R / CD-RW ディスクは再生できなくなる場合があります。
- ファイナライズされていない CD-R / CD-RW ディスクには対応していません。
- CD-R / CD-RW ディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

●「DualDisc」の再生について

- 「DualDisc」は、片面に DVD 規格準拠の映像やオーディオが、もう片面に CD 再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- DVD 面ではないオーディオ面は、一般的な CD の物理的規格に準拠していないために再生できないことがあります。
- 「DualDisc」を再生機器に挿入をしたり、取り出しをしたりするときに再生面の反対側の面に傷がつく場合があります。傷が付いた面は再生すると不具合がでる場合があります。
- ディスクを取り出せないといった不具合が起こる可能性がありますので「DualDisc」はご使用にならないでください。
- 「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しましては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

●取り扱い上のご注意

- CD は、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。



- CD にキズを付けないでください。
- CD にシールなどを貼らないでください。



●保管上のご注意

- 直射日光の当たるところや高温になるところには、CD を保管しないでください。



- CD がそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

●お手入れについて

- CD が汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。



●CD 再生の環境について

- 走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。
- 寒いとき、ヒーターを入れた直後に CD 再生を始めると、本機内部の光学系レンズや CD に露が生じて、正常な再生ができないことがあります。このようなときは、1 時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。CD に付いた露は柔らかい布でふいてください。

✎メモ

- 製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルについて

●WMA とは？

- 「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7以降を使用してエンコードできます。

📌 ご注意

- WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 本機で画像データを含む WMA ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

●再生できる WMA ファイルについて

📌 ご注意

- WMA ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wma) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wma) が付いているファイルを WMA ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMA ファイル以外には拡張子 (.wma) を付けしないでください。

- 再生可能な WMA ファイルのサンプリング周波数は 32 kHz ~ 48 kHz です。
- WMA ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、CBR (固定ビットレート) で 48 kbps ~ 320 kbps、VBR (可変ビットレート) で 48 kbps ~ 384 kbps の WMA ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いビットレートで記録することをおすすめします。
- デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたファイルは、再生がスキップされます。「SKIPPED」と表示されます。
- ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている場合、そのディスクは再生できません。「PROTECT」と表示されます。
- この製品は、下記の形式には対応していません。
 - Windows Media Audio Professional (5.1ch)
 - Windows Media Audio Lossless (可逆圧縮)
 - Windows Media Audio Voice

●MP3 とは？

- 「MPEG Audio Layer-3」の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

次のページに続く

●再生できる MP3 ファイルについて

ご注意

- MP3 ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.mp3) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.mp3) が付いているファイルを MP3 ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3 ファイル以外には拡張子 (.mp3) を付けなくてください。
- ID3 tag の Ver. 1.0 / 1.1 / 2.2 / 2.3 / 2.4 のアルバム名、曲名、およびアーティスト名の表示に対応しています。なお、ID3 tag の Ver. 1.X と Ver. 2.X が混在している場合は、Ver. 2.X が優先されます。
- サンプリング周波数が 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz の MP3 ファイルを再生する場合のみ、エンファシスに対応します。なお、再生可能なサンプリング周波数は、8 kHz ~ 48 kHz です。
- MP3 ファイルは一般的に、ビットレートが高いほど音質が良くなります。本機は、8 kbps ~ 320 kbps の MP3 ファイルの再生に対応しています。また、本機は VBR (可変ビットレート) で記録されたディスクの再生にも対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、128 kbps 以上のビットレートで記録することをおすすめします。

- AAC ファイルをエンコードした iTunes のバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- AAC ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- 再生可能な AAC ファイルのサンプリング周波数は、11.025 kHz ~ 48 kHz です。
- AAC ファイルは一般的に、ステレオビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、16 kbps ~ 320 kbps のステレオビットレートで記録された AAC ファイルの再生に対応しています。また、本機は VBR (可変ビットレート) で記録されたディスクの再生にも対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高いステレオビットレートで記録することをおすすめします。
- iTunes Store で購入された楽曲 (.m4p) は、CD-R / CD-RW または USB 機器に記録して再生できません。
- 本機は、次の形式には対応していません。
 - Apple ロスレス・エンコーダ

●WAV とは？

- 「Waveform」の略で、Windows® の標準音声フォーマットです。

●再生できる WAV ファイルについて

ご注意

- WAV ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wav) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wav) が付いているファイルを WAV ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WAV ファイル以外には拡張子 (.wav) を付けなくてください。
- 本機は、LPCM 形式および MS ADPCM 形式でエンコードされた WAV ファイルの再生に対応しています。
- 本機は、LPCM 形式では 16 kHz ~ 48kHz、MS ADPCM 形式では 22.05 kHz ~ 44.1 kHz のサンプリング周波数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。
- 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではないことがあります。

●AAC とは？

- 「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG2、MPEG4 で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

●再生できる AAC ファイルについて

ご注意

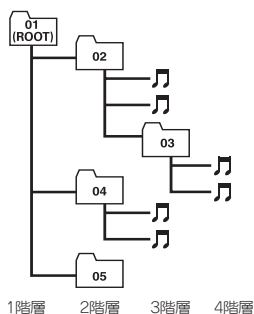
- AAC ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.m4a) を付けてください。
- 本機は、iTunes を使用してエンコードされた AAC ファイルの再生に対応しています。
- 本機は、iTunes で作成された拡張子 (.m4a) が付いているファイルを AAC ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、AAC ファイル以外には拡張子 (.m4a) を付けなくてください。
- 本機で画像データを含む AAC ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

- WAV ファイルは一般的に、量子化ビット数が高いほど音質が良くなります。本機は、LPCM 形式で 8 bit または 16 bit、MS ADPCM 形式で 4 bit の量子化ビット数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しむためには、より高い量子化ビット数で記録することをおすすめします。

- 曲間（トラック間）にブランクがない CD を、WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルとして CD-R / CD-RW / CD-ROM に記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。
- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R / CD-RW / CD-EXTRA / MIXED-MODE CD ディスクに WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルと音楽データ（CD-DA）が混在しているときは、WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルと音楽データ（CD-DA）を切り換えて再生できません（➡「CD のふだんの操作」9 ページ）。この場合、再生は一番先頭の曲から始まります。
- WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを含まないフォルダーは認識しません。フォルダーの番号を表示せず、スキップします。
- 8 階層までの WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルの再生に対応しています。ただし、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスクの作成時には、階層を 2 つ以下にすることをおすすめします。
- 再生できるファイルの合計は、最大 999 ファイルです。
- 再生できるフォルダーの合計は、最大 99 フォルダーです。

ディスク内のフォルダーについて

- WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを収録した CD-R / CD-RW / CD-ROM のフォルダー構造は次の図のようになります。



- WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルが記録された CD-R / CD-RW / CD-ROM の再生に対応しています。ISO9660 のレベル 1 / レベル 2 / 拡張フォーマット（Joliet, Romeo）に準拠して記録されたディスクが再生可能です。
- マルチセッション方式で記録したディスクの再生に対応しています。
- パケットライトには対応していません。
- m3u のプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、および MP3 PRO フォーマットには対応していません。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて 32 文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は 32 文字です。
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を指定できるものもあります。

USB 機器について

- USB ポータブルオーディオプレーヤーや USB Mass Storage Class 対応の USB メモリーに収録された WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルを再生できます。



ご注意

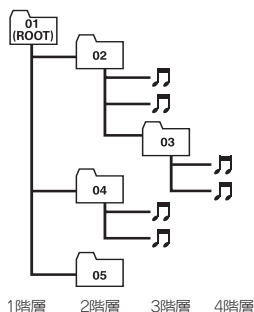
- USB 機器を本機に接続する際は、別売の USB ケーブル（例：CD-U51E）を使用してください。USB ケーブルを使わずに直接接続すると、USB 機器が突起物となり危険です。指定の USB ケーブル以外は、使用しないでください。
- 接続する USB 機器によっては、ラジオにノイズの影響を与えることがあります。
- パーティションを作った USB メモリーは、再生可能な最初のパーティションだけを再生します。

次のページに続く

- 使用する USB 機器の種類によっては、本機が正しく認識できない場合があります。また、曲を正しく再生できない場合があります。
- USB ハブを使用しての接続には対応していません。
- USB 機器を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、USB 機器は必ず固定してください。USB 機器が落下して、ブレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- USB メモリー、USB オーディオプレーヤー以外（USB 扇風機など）は接続しないでください。
- USB 機器の取り扱いについて詳しくは、それぞれの説明書をお読みください。

USB 機器内のフォルダーについて

- USB メモリー内のフォルダーと圧縮オーディオファイルの構成は、下図のようになります。USB ポータブルオーディオプレーヤーの場合の構成は、プレーヤーによって異なります。



- 01～05はフォルダー番号の割り当て、①～⑥は曲の再生順の例です。ユーザーが本機でフォルダー番号を割り当てたり、再生の順番を指定することはできません。
- Music ブラウズ設定（➡「曲のさがしかたを設定する」56 ページ）が ON の場合、再生はそれぞれのカテゴリ内のアルファベット順になります。OFF の場合の再生順はつぎのとおりです。
- 圧縮オーディオファイルの再生の順序は、USB メモリーにコピーされた順番と同じです。

- 再生の順序を指定するには、次の方法を推奨します。

- ① パソコンで、「001xxx.mp3」や「099yyy.wma」など順番を示す数字をファイル名の先頭に付ける。
- ② それらのファイルをフォルダーに入れる。
- ③ フォルダー単位で USB メモリーにコピーする。

ただしパソコンの環境によっては、この方法で指定できない場合もあります。

- 再生できるファイルの合計は、最大 15 000 ファイルです。
- 再生できるフォルダーの合計は、最大 1500 フォルダーです。
- 8 階層までの WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルの再生に対応しています。
- USB 機器のフォルダー階層が多い場合、再生が始まるまでに時間がかかります。
- 画像データを含む圧縮オーディオファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子を含めて 32 文字です。また、フォルダー名の最大表示文字数は 32 文字です。
- ファイルをエンコード／ライティングしたアプリケーションによっては、文字情報が正しく表示されないことがあります。
- m3u のプレイリストには対応していません。

iPod について

●本機が対応する iPod

- 本機は以下の iPod に対応しています。本機で確認済みのソフトウェアのバージョンは次のとおりです。これ以前のバージョンについては保証できません。
- 第 4 世代 iPod nano : Ver. 1.0.3
- 第 3 世代 iPod nano : Ver. 1.1.3
- 第 2 世代 iPod nano : Ver. 1.1.3
- 第 1 世代 iPod nano : Ver. 1.3.1
- 第 2 世代 iPod touch : Ver. 3.0
- 第 1 世代 iPod touch : Ver. 3.0
- iPod classic 120G : Ver. 2.0.1

- iPod classic : Ver. 1.1.2
- 第5世代 iPod : Ver. 1.3
- iPhone 3GS : Ver. 3.0
- iPhone 3G : Ver. 3.0
- 最新の情報についてはカロツツェリアホームページ (<http://carrozzeria.jp>) をご覧ください。
- 操作方法は、iPod の世代やソフトウェアのバージョンによって異なります。
- iPod を接続するには、iPod 用 USB 変換ケーブル (例:CD-IU50) が必要です。



ご注意

- iPod は、著作権のないマテリアル、または法的に複製・再生を許諾されたマテリアルを個人が私的に複製・再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。
- iPod を直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本機と組み合わせて使用する場合、iPod は必ず固定してください。iPod が落下して、プレーキペダルやアクセルペダルの下に滑り込むと大変危険です。
- iPod の取り扱いについて詳しくは、iPod の説明書をお読みください。

● iPod の設定について

- 音質効果を最適にするために、iPod が接続されると、本機は iPod の EQ の設定を自動的に「オフ」にします。取り外すと、設定は自動的に元に戻ります。
- iPod を本機に接続している場合、iPod のリピートは「オフ」に設定できません。また、iPod のリピートが「オフ」に設定されていても、本機に接続すると、自動的に「すべて」に変更されます。

故障かな?と思ったら

故障かな?と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。



それでも直らないときは

「保証書とアフターサービス」をお読みになり、修理を依頼してください。

●共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているか、もう一度確認してください。 車両のバッテリーのマイナス端子を外して、1分後再接続してください。
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものとの交換してください。
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を調節してください (⇒「基本的な操作」16ページ)。
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (⇒「前後左右の音量バランスを調節する」49ページ)。
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (⇒「前後左右の音量バランスを調節する」49ページ)。
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください (⇒「前後左右の音量バランスを調節する」49ページ)。
ディスプレイの表示がおかしい。	エンタテインメント表示が設定されている。	お好みの表示を選んでください。 (⇒「エンタテインメントを表示する」64ページ)。
ディスプレイが反転表示する。	リバースモードがONになっている。	リバースモードを解除してください。 (⇒「デモモードについて」12ページ、「リバースモードをON/OFFする」60ページ)。
電源をOFFにしても映像が出ている。	フィーチャーデモがONになっている。	フィーチャーデモを解除してください。 (⇒「デモモードについて」12ページ、「フィーチャーデモをON/OFFする」60ページ)。
本機が誤動作する。 雑音が入る。	携帯電話などの電波発信機器を本機に近づけて使用している。	電波発信機器を本機から離してご使用ください。

●ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください (⇒「ラジオのふだんの操作」18ページ)。
	放送局の電波が弱い。	ほかの放送局を選局してみてください (⇒「ラジオのふだんの操作」18ページ)。
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください (⇒「ラジオのふだんの操作」18ページ)。

●CD、WMA / MP3 / AAC / WAV

症状	原因	処置
CD再生中、大きな雑音が出る。 CDの再生が途中で止まる。 CDが自動的に出てくる。	CDに大きなキズやそりがある。	CDを交換してください。 良くなれば、CDの不良です。
	CDが極端に汚れている。	CDの汚れをふき取ってください (⇒「CDの正しい使いかた」66ページ)。
	CDに曇りや汚れがついている。	CDの曇りや汚れをふき取ってください (⇒「CDの正しい使いかた」66ページ)。
	CDの裏表を逆にしてセットしている。	CDのタイトル面を上にしてセットしてください。

こんなメッセージが表示されたら

正常に再生できないときは、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

●CD、WMA / MP3 / AAC / WAVのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-17」 「ERROR-30」	CDが汚れているとき。 CDにキズやひびがあるとき。	CDの汚れをふき取ってください。 CDを交換してください。
「ERROR-15」	CD-R / CD-RWを録音しないまま使用している。	CD-R / CD-RWは、録音してからお使いください。
「ERROR-10」 「ERROR-11」 「ERROR-12」 「ERROR-15」 「ERROR-17」 「ERROR-30」 「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにするか、CD再生を一度やめてから、もう一度CD再生してみてください。
「ERROR-22」 「ERROR-23」	再生できないフォーマットのCD-ROMを挿入した。	CDを交換してください。
「NO AUDIO」	何も録音されていないCD-ROMを挿入した。	WMA / MP3 / AAC / WAVファイルの記録されているCD-ROMと交換してください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている。	CDを交換してください。
「SKIPPED」	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたWMAファイルを再生した。	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されていないファイルを再生してください。

●USBのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「CHECK USB」	USBコネクタまたはUSBケーブルがショートした。	USBコネクタ / USBケーブルが何かにはさまっていないか、破損していないか確認してください。
	規定 (⇒「おもな仕様」77ページ) 以上の電流を消費するUSB機器を接続した。	接続したUSB機器を外してください。そのあとで、車のエンジンスイッチを一度OFFにしてからONにしてください。次に、対応するUSB機器を接続してください。
「NOT COMPATIBLE」	接続されたUSB機器が本機に対応していない。	USB Mass Storage Class 対応のUSB機器を接続してください。
「NO AUDIO」	何も収録・保存されていないUSB機器を接続した。	対応する圧縮オーディオファイルが収録・保存されたUSB機器を接続してください。
	セキュリティー機能付きのUSBメモリーを接続した。	USBメモリーの説明書に従って、セキュリティーを解除してから使用してください。

次のページに続く

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
[PROTECT]	USB 機器内のすべての WMA ファイルが Windows Media DRM 9 / 10 で保護されている。	Windows Media DRM 9 / 10 で保護されていない圧縮オーディオファイルを収録・保存した USB 機器を接続してください。
[SKIPPED]	Windows Media DRM 9 / 10 で保護された WMA ファイルを再生した。	Windows Media DRM 9 / 10 で保護されていない圧縮オーディオファイルを再生してください。
[ERROR-19]	正常に通信できない。	以下のいずれかの処置を行ったあと、ソースを USB に切り換えてください。車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON する。／接続した USB 機器を一度外してから接続する。／別のソースに切り換える。
[ERROR-23]	接続された USB 機器のフォーマットが、FAT32 か FAT16 ではない。	フォーマットが、FAT32、FAT16、または FAT12 の USB 機器を接続してください。
[NO DEVICE]	USB/iPOD ソース自動切り換え設定が OFF の場合に、USB 機器が接続されていない。	USB/iPOD ソース自動切り換え設定を ON にしてください (➡「USB/iPod ソースの切り換え方法を設定する」56 ページ)。 対応する USB 機器を接続してください。
[CHECKING ▶ TAGS]	Music ブラウズのためのデータベース、またはリストを構築している。	データベース、またはリスト構築が完了するまでお待ちください。

● iPod のエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
[CHECK USB]	iPod は動作するが、充電されない。	iPod ケーブルがショートしていないか (たとえば、金属物にはさまれていないか) 確認してください。確認後、車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にするか、iPod を一度脱着してください。
[N/A USB]	接続された iPod が本機に対応していない。	本機に対応した iPod を使用してください。
[ERROR-19]	正常に通信できない。 iPod に問題が発生した。	コネクタを一度外し、iPod のメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクタを接続してください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
[ERROR-16]	iPod ソフトウェアのバージョンが古い。 iPod に問題が発生した。	iPod ソフトウェアのバージョンをアップデートしてください。 コネクタを一度外し、iPod のメインメニューが表示されてから、もう一度確実にコネクタを接続してください。それでも iPod が正常に動作しない場合は、iPod をリセットしてください。
[STOP]	選んだプレイリストに曲が入っていない。 iPod に曲が入っていない。	曲が入っているプレイリストを選んでください。 iPod に曲を転送してください。
[NO DEVICE]	USB/iPOD ソース自動切り換え設定が OFF の場合に、USB 機器または iPod が接続されていない。	USB/iPOD ソース自動切り換え設定を ON にしてください (➡「USB/iPod ソースの切り換え方法を設定する」56 ページ)。 対応する iPod を接続してください。

保証書とアフターサービス

商標・著作権など

●保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

●保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービスステーション）にご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

●保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービスステーション）にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

●ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

●WMA



Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品は、米国Microsoft Corporationが所有する技術を使用しています。また、米国Microsoft Licensing Inc.の許可を得ずに使用または頒布できません。

●MP3

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ <http://www.mp3licensing.com> をご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

●iTunes

iTunesは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

●iPod



iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

「Made for iPod」とは、iPod 専用 に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。

アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

●iPhone



iPhone は、Apple Inc. の商標です。

「Works with iPhone」とは、iPhone 専用 に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。

アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

おもな仕様

●共通部

使用電源:	DC 14.4 V (10.8 V ~ 15.1 V 使用可能)
アース方式:	マイナスアース方式
最大消費電流:	10.0 A
外形寸法	(取付寸法): 178 (W) mm × 50 (H) mm × 165 (D) mm (ノーズ寸法): 170 (W) mm × 46 (H) mm × 17 (D) mm
質量:	1.3 kg (コード含まず)

●アンプ／オーディオ部

最大出力:	50 W × 4 50 W × 2 ch / 4 Ω + 70 W × 1 ch / 2 Ω (for サブウーファー)
定格出力:	22 W × 4 (50 Hz ~ 15 000 Hz, 5 % THD)
負荷インピーダンス:	4 Ω ~ 8 Ω × 4 4 Ω ~ 8 Ω × 2 + 2 Ω × 1
プリアウト最大出力レベル:	2.2 V
出力インピーダンス:	1 k Ω
イコライザー (5 バンドグラフィックイコライザー)	周波数: 100 / 315 / 1.25kHz / 3.15kHz / 8k Hz 調整幅: ± 12 dB (2 dB step)

ラウドネスコンター

(LOW)	: 3.5 dB (100 Hz) 3 dB (10 kHz)
(MID)	: 10 dB (100 Hz) 6.5 dB (10 kHz)
(HIGH)	: 11 dB (100 Hz) 11 dB (10 kHz) (ボリューム: - 30 dB)

ハイパスフィルター

周波数:	50 / 63 / 80 / 100 / 125 Hz
スロープ:	- 12 dB / oct

サブウーファー出力

周波数:	50 / 63 / 80 / 100 / 125 Hz
スロープ:	- 18 dB / oct
調整幅:	+ 6 dB ~ - 24 dB
位相:	NORMAL / REVERSE

バスブースター

調整幅:	+ 12 dB ~ 0 dB
------	----------------

●CD プレーヤー部

形式:	コンパクトディスクオーディオシステム
使用ディスク:	コンパクトディスク
信号フォーマット	サンプリング周波数: 44.1 kHz 量子化ビット数: 16 ビット直線
周波数特性:	5 Hz ~ 20 000 Hz (± 1 dB)
S/N 比:	94 dB (1 kHz) (IHF-A ネットワーク)
ダイナミックレンジ:	92 dB (1 kHz)
チャンネル数:	2 (ステレオ)

次のページに続く

MP3 デコーディングフォーマット： MPEG-1 & 2 AUDIO LAYER-3
WMA デコーディングフォーマット： Ver. 7, 7.1, 8, 9, 10, 11 (2 ch audio)
(Windows Media Player)
AAC デコーディングフォーマット： MPEG-4 AAC
(Ver. 8.2 以前の iTunes でエンコードされた楽曲)
WAV シグナルフォーマット： Linear-PCM、MS ADPCM

●USB 部

USB 規格： USB 2.0 Full Speed
最大供給電流： 500 mA
ファイルシステム： FAT12、FAT16、FAT32
USB クラス： マスストレージクラス
MP3 デコーディングフォーマット： MPEG-1 & 2 AUDIO LAYER-3
WMA デコーディングフォーマット： Ver. 7, 7.1, 8, 9, 10, 11 (2 ch audio)
(Windows Media Player)
AAC デコーディングフォーマット： MPEG-4 AAC
(Ver. 8.2 以前の iTunes でエンコードされた楽曲)
WAV シグナルフォーマット： Linear-PCM、MS ADPCM

●FM チューナー部

受信周波数帯域： 76.0 MHz ~ 90.0 MHz
実用感度： 9 dBf (0.8 μ V/75 Ω 、モノラル、S/N : 30 dB)
S/N : 72 dB (IHF-A ネットワーク)
高調波歪率： 0.3 % (65 dBf 入力、1 kHz、ステレオ)
0.1 % (65 dBf 入力、1 kHz、モノラル)
周波数特性： 30 Hz ~ 15 000 Hz (\pm 3 dB)
ステレオセパレーション： 45 dB (65 dBf 入力、1 kHz)

●AM チューナー部

受信周波数帯域： 522 kHz ~ 1 629 kHz (9 kHz)
実用感度： 25 μ V (S/N : 20 dB)
S/N : 62 dB (IHF-A ネットワーク)

●付属品

コードユニット： 1 式
取付ネジ類： 1 式
取扱説明書： 1
取付説明書： 1
リモコン： 1
リチウム電池 (CR2025)： 1
安全上のご注意： 1
保証書： 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内： 1



メモ

- 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる  フリーコールおよび  フリーコールは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口

- お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付センター (沖縄県を除く全国)

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00

土曜 9:30～12:00、13:00～17:00 (日曜・祝日・弊社休業日は除く)
コー バイオニア

電話  **0120-5-81028**

【一般電話】 **03-5496-2023**

ファックス  **0120-5-81029**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/repair.html>

※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ/ビジュアル商品に限ります

沖縄サービス認定店 (沖縄県のみ)

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00 (土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く)

電話 【一般電話】 **098-987-1120**

ファックス **098-987-1121**

部品のご購入についてのご相談窓口

- 部品 (付属品・リモコン・取扱説明書など) のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00



土曜 9:30～12:00、13:00～17:00 (日曜・祝日・弊社休業日は除く)

電話  **0120-5-81095**

【一般電話】 **0538-43-1161**

ファックス  **0120-5-81096**

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる  フリーコールおよび  フリーコールは、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口

● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00

土曜 9:30～12:00、13:00～17:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

■ カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話  **0120-944-111**

【一般電話】 **03-5496-8016**

ファックス **03-3490-5718**

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/>

※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など